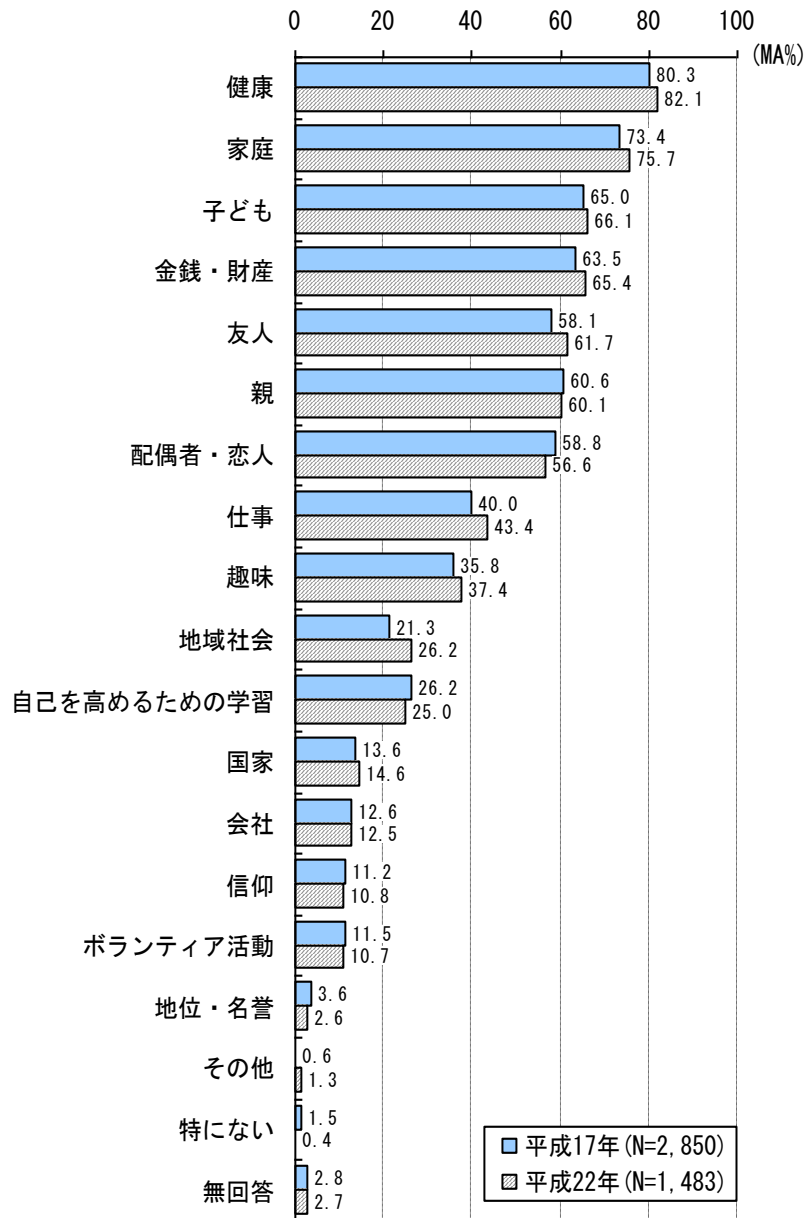


# 1 生活や社会に関する考え方について（前回調査との比較）

## （1）生活の中で大切にしたいもの

【図 1-1 生活の中で大切にしたいもの（前回調査との比較）】



生活の中で大切にしたいものについて、前回・今回とも「健康」が8割台と最も高く、次いで「家庭」が7割台、「子ども」と「金銭・財産」が6割台と続いている。

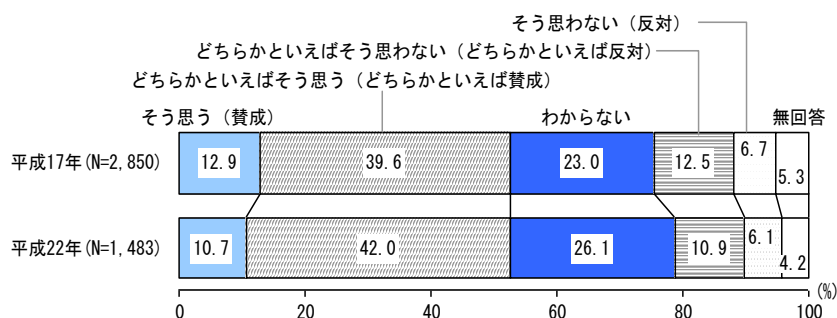
前回調査では「友人」に比べ「親」や「配偶者・恋人」の方が上位であったが、今回調査では「友人」の割合が3.6ポイント高くなってなり、第5位に上がっている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「地域社会」が4.9ポイント、「仕事」が3.4ポイント高くなっている。（図 1-1）

さらに前々回調査（2000年調査）と比べると、1位「健康」、2位「家庭」の順位は変わらないものの、比率が5～7ポイント落ち込んでいる。調査対象者の年齢が高齢化しているにもかかわらず、その比率が下がっている点に大きな特徴があるといえよう。

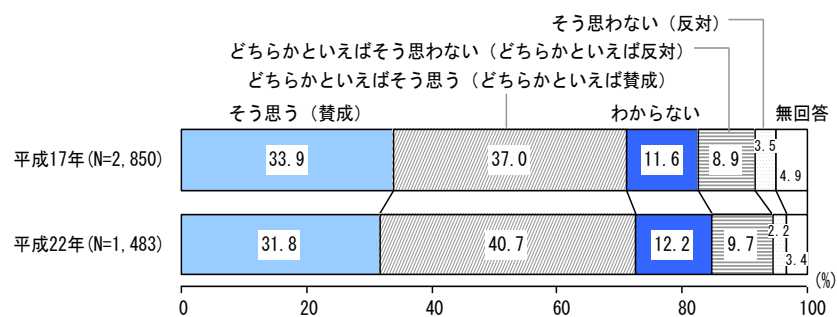
## (2) 伝統・慣習等に対する意識

【図 1-2 ア. 伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい】



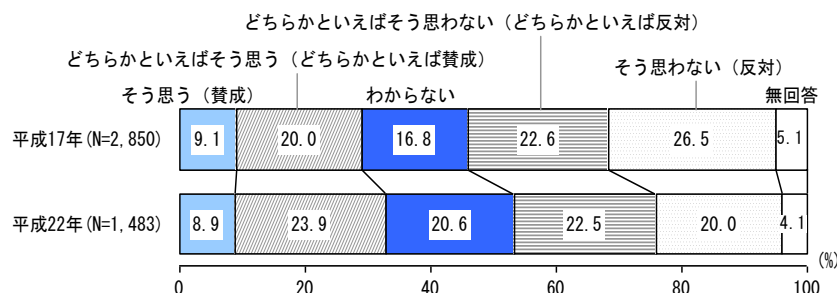
「ア. 伝統や慣習に従う方が、よい結果となりやすい」について、前回、今回とも”肯定派“が5割を超えているが、ほとんど変化はみられない。他方、”否定派“は、2.2ポイント下がって、「わからない」が3.1ポイント上がっている（図 1-2）

【図 1-3 イ. 私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない】



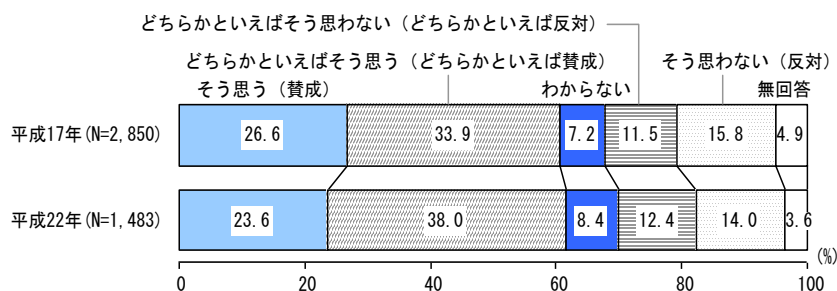
「イ. 私は、自分が納得できないことは、たとえ皆が行っていても、やりたくない」について、前回調査と比較すると、前回・今回とも“肯定派”が7割台を占めており、“否定派”を大きく上回っているが、前回調査と比べ“肯定派”が1.6ポイント高く、“否定派”が0.5ポイント低くなっている。（図 1-3）

【図 1-4 ウ. 国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない】



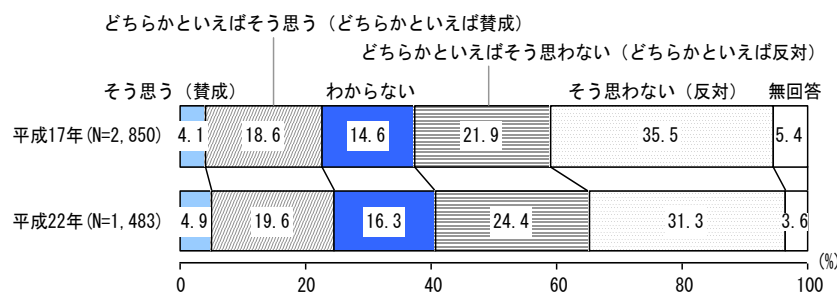
「ウ. 国が栄えるためには、個人の自由がある程度犠牲になっても、やむをえない」について、今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が6.6ポイント低くなり、“肯定派”が3.7ポイント高くなっている。（図 1-4）

【図 1-5 エ. 結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい(前回調査との比較)】



「エ. 結婚式の日どりを決めるときに、仏滅の日は避け、大安の日を選んだ方がよい」について、前回・今回とも“肯定派”が6割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。前回調査と比べ“肯定派”が1.1ポイントだけ高くなっている。(図 1-5)

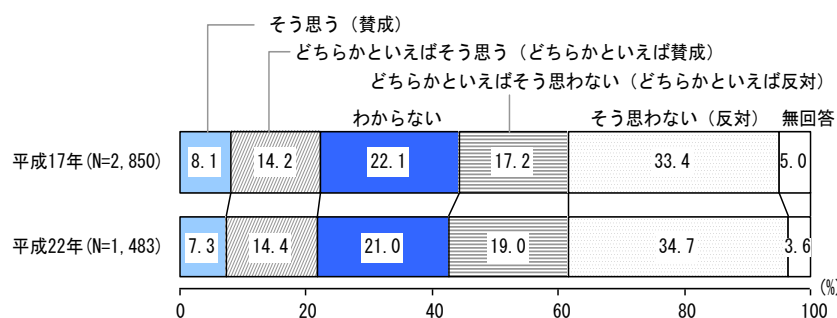
【図 1-6 オ. 結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる(前回調査との比較)】



「オ. 結婚相手を決めるときに、家柄についてこだわる」について、前回・今回とも“否定派”が過半数を占めており、ともに“肯定派”に比べ割合が高くなっている。

ただし、今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が1.7ポイント低くなり、“肯定派”が1.8ポイント高くなっている。(図 1-6)

【図 1-7 カ. 死は、けがれていると思うので、葬式の時に清めの塩をまく方がよい(前回調査との比較)】

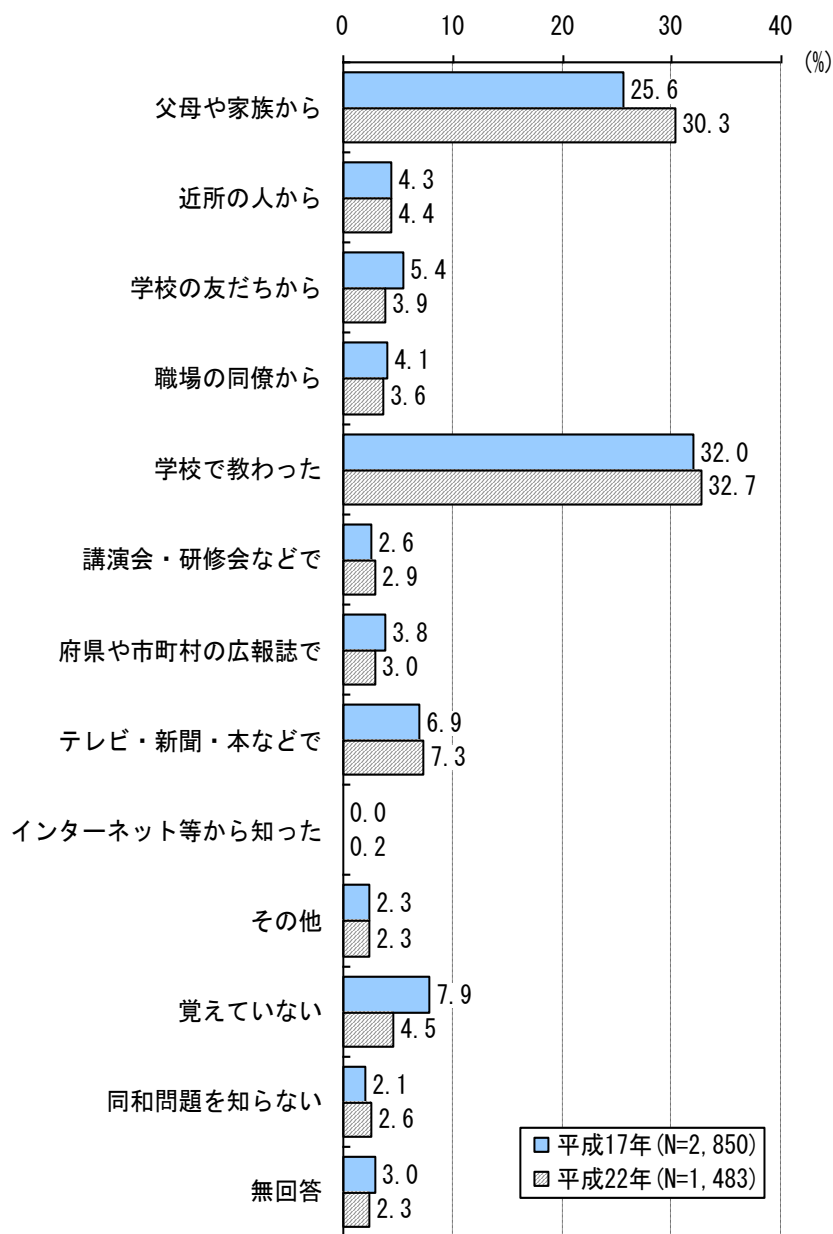


「カ. 死は、けがれていると思うので、葬式の時に清めの塩をまく方がよい」について、前回・今回とも“否定派”が過半数を占めており、“肯定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が3.1ポイント高くなっている。(図 1-7)

## 2 同和問題について（前回調査との比較）

### （1）同和問題や被差別部落を知った経緯

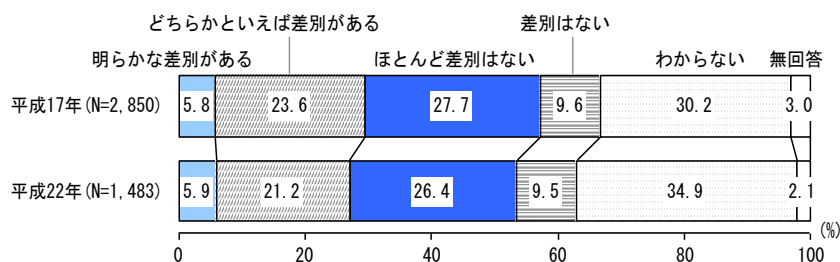
【図 2-1 同和問題や被差別部落を知った経緯（前回調査との比較）】



同和問題や被差別部落を知った経緯について、前回・今回とも「学校で教わった」が3割台と最も高く、次いで「父母や家族から」、「テレビ・新聞・本などで」と続いている。今回調査では、前回調査と比べ「父母や家族から」の割合が4.7ポイント高くなっている。（図 2-1）

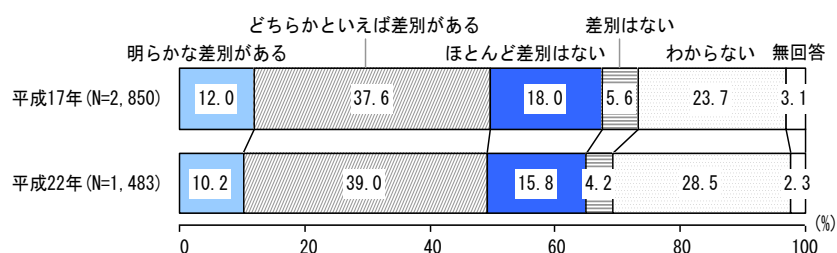
## (2) 就職や結婚時の部落差別について

【図 2-2 ア. 就職についての部落差別（前回調査との比較）】



「ア. 就職についての部落差別」について、前回・今回とも“差別はない”が3割台を占めており、“差別がある”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“差別はない”が1.4ポイント、“差別がある”が2.3ポイント低くなり、“わからない”が4.7ポイント増えている。（図 2-2）

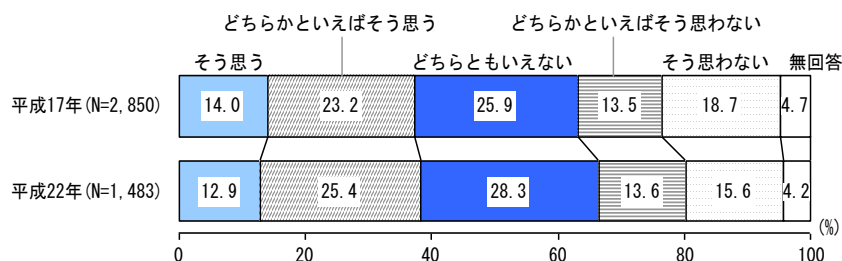
【図 2-3 イ. 結婚についての部落差別（前回調査との比較）】



「イ. 結婚についての部落差別」について、前回・今回とも“差別がある”が5割近くを占めており、“差別はない”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“差別がある”にほとんど差はみられないが、“差別はない”が3.6ポイント低くなっている。（図 2-3）

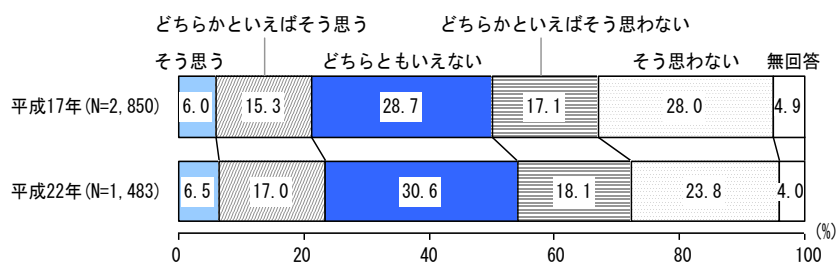
## (3) 同和問題についての考え方

【図 2-4 ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である（前回調査との比較）】



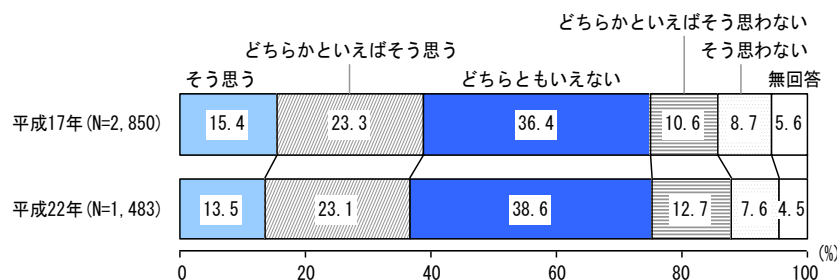
「ア. 部落差別はいけないことだが、自分とは関係のない話である」について、前回・今回とも“肯定派”が4割近くを占めており、“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が1.1ポイント高くなっている。（図 2-4）

【図 2-5 イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる（前回調査との比較）】



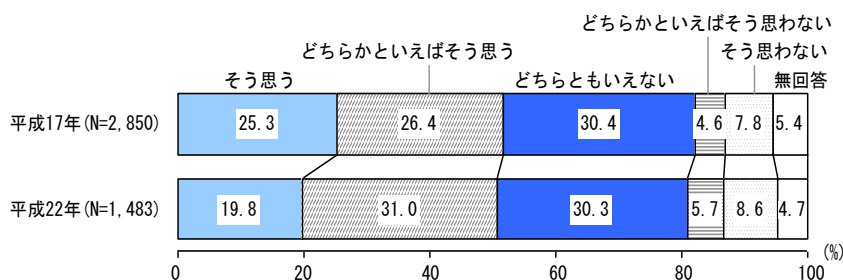
「イ. 同和地区の人々と、深く関わることにはためらいを感じる」について、前回・今回とも“否定派”が4割台を占めており、“肯定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が3.2ポイント低くなり、“肯定派”が2.2ポイント高くなっている。（図 2-5）

【図 2-6 ウ. 今まで、差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、差別について厳しく追及するのも理解できる（前回調査との比較）】



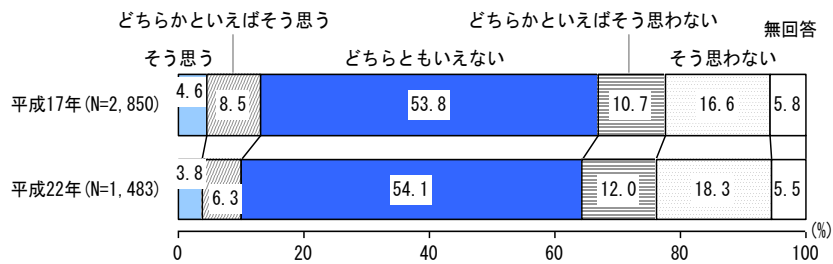
「ウ. 今まで、差別されてきた同和地区の人々のくやしさを思えば、差別について厳しく追及するのも理解できる」について、前回・今回とも“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が2.1ポイント低くなり、“否定派”が1.0ポイント高くなっている。（図 2-6）

【図 2-7 エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる（前回調査との比較）】



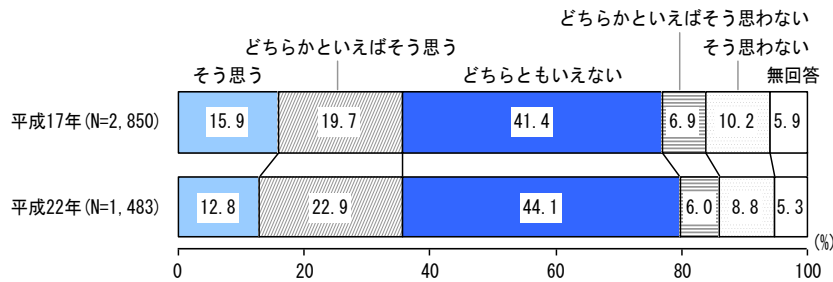
「エ. 部落差別を許さない態度を身につけることは、他の人権問題にもプラスになる」について、前回・今回とも“肯定派”が過半数を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が0.9ポイント低くなり、“否定派”が1.9ポイント高くなっている。（図 2-7）

【図 2-8 オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、人として思いやりが多い（前回調査との比較）】



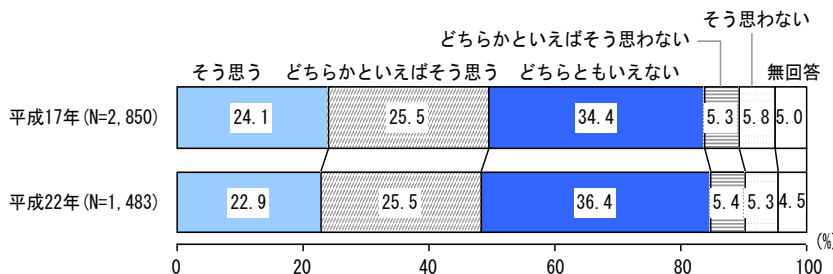
「オ. 同和地区の人々には、差別されるくやしさを知っているだけに、人として思いやりが多い」について、前回・今回とも“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっているが、「どちらともいえない」が過半数を占めている。今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が3.0ポイント高くなっている。（図 2-8）

【図 2-9 カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくる（前回調査との比較）】



「カ. 同和地区の人は何かあると集団でおしかけてくる」について、前回・今回とも“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっているが、「どちらともいえない」が4割台を占めている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”にほとんど差はみられないが、“否定派”が2.3ポイント低くなっている。（図 2-9）

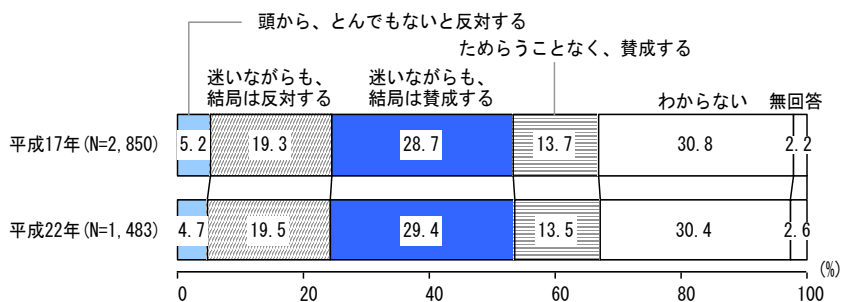
【図 2-10 キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる（前回調査との比較）】



「キ. 同和地区の人々は、「差別、差別」と言って、被害者意識が強すぎる」について、前回・今回とも“肯定派”が5割近くを占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が1.2ポイント、“否定派”が0.4ポイント低くなっている。（図 2-10）

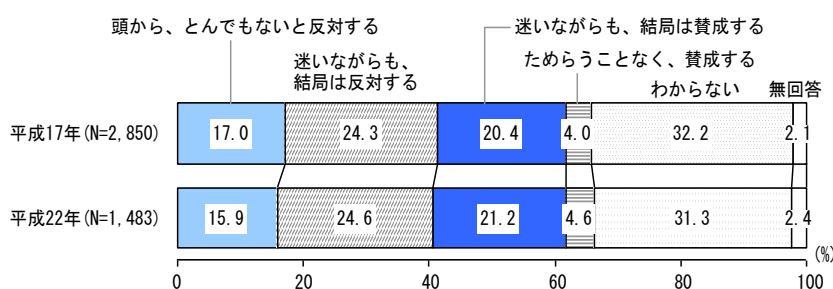
#### (4) 同和地区の方との結婚について

【図 2-11 ア. 親としての態度（前回調査との比較）】



「ア. 親としての態度」について、前回・今回とも“賛成派”が4割台を占めており、ともに“反対派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“賛成派”がわずかではあるが、0.5ポイント高くなっている。（図 2-11）

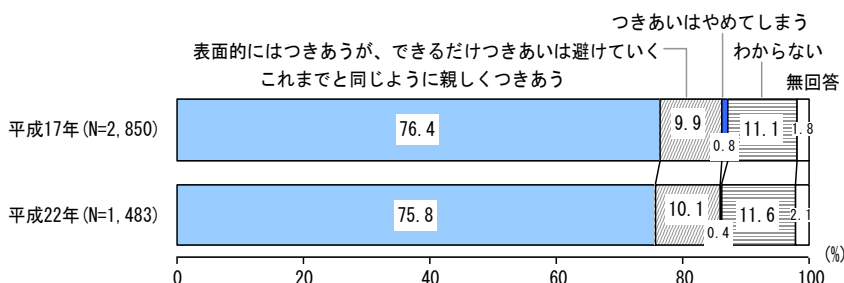
【図 2-12 イ. 身近な親類の態度（前回調査との比較）】



「イ. 身近な親類の態度」について、前回・今回とも“反対派”が4割台を占めており、“賛成派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“反対派”が0.8ポイント低くなり、“賛成派”が1.4ポイント高くなっている。（図 2-12）

#### (5) 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合

【図 2-13 日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合（前回調査との比較）】

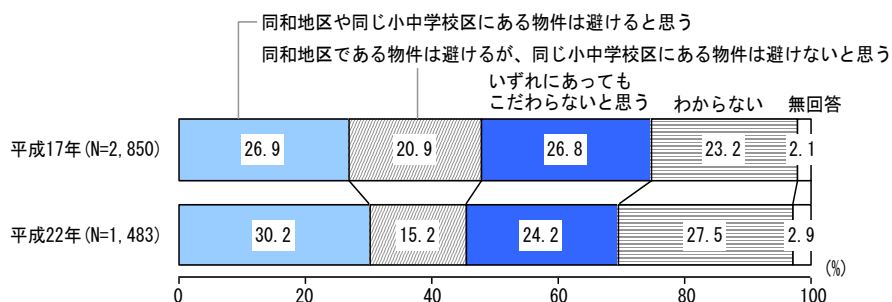


日ごろから親しくつきあっている人が同和地区出身者であった場合について、前回・今回とも「これまでと同じように親しくつきあう」が7割台を占めて最も高く、次いで「表面的にはつきあうが、できるだけつきあいは避けていく」が1割前後、「つきあいはやめてしまう」が1割未満となっており、差はほとんどみられない。（図 2-13）



## (6) 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて

【図 2-14 同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて（前回調査との比較）】

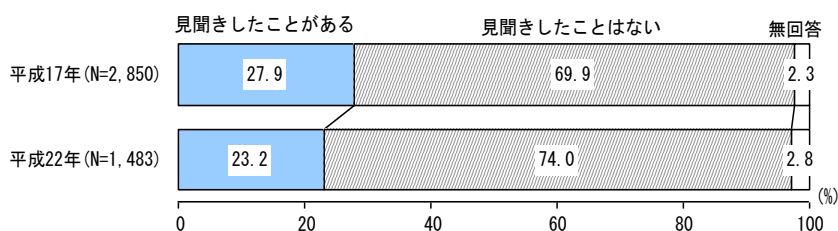


同和地区内で住宅を購入、賃貸することについて、前回・今回とも「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」最も高く、次いで「いずれにあってもこだわらないと思う」、「同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けないと思う」という順になっている。

また、今回調査では、前回調査に比べ「同和地区や同じ小中学校区にある物件は避けると思う」が 3.3 ポイント高くなり、「いずれにあってもこだわらないと思う」が 2.6 ポイント、「同和地区である物件は避けるが、同じ小中学校区にある物件は避けないと思う」が 5.7 ポイント低くなっている。（図 2-14）

## (8) 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験

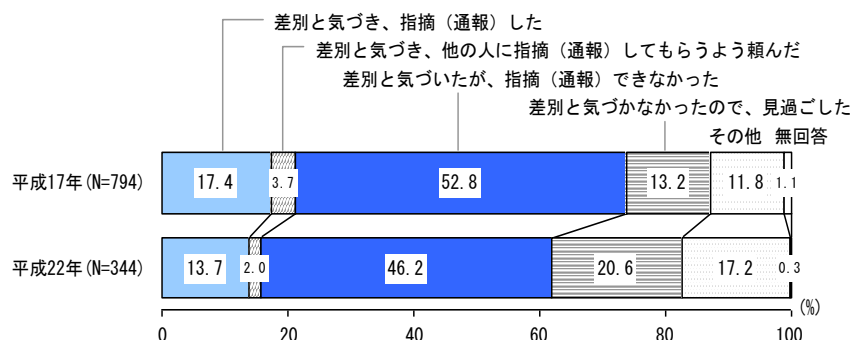
【図 2-15 同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験（前回調査との比較）】



同和地区の人々への差別的な言動などを見聞きした経験について、前回・今回とも「見聞きしたことはない」が 7 割前後を占めており、「見聞きしたことがある」に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査に比べ「見聞きしたことはない」が 4.1 ポイント高くなり、「見聞きしたことがある」が 4.7 ポイント低くなっている。（図 2-15）

## (9) 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応

【図 2-16 同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応（前回調査との比較）】

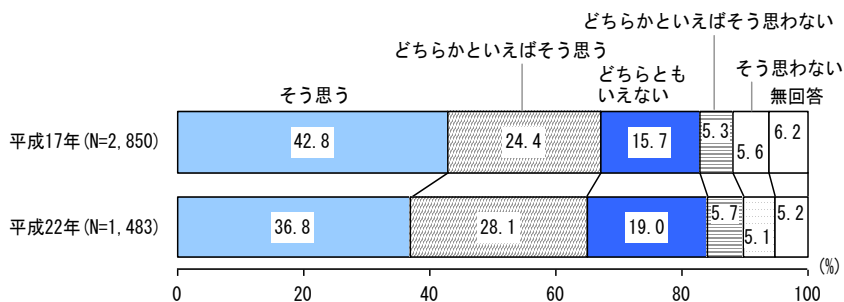


同和地区の人々への差別を見聞きした時の対応について、前回・今回とも「差別と気づいたが、指摘（通報）できなかった」が最も高くなっている。前回調査で次位の「差別と気づき、指摘（通報）した」が低下し、代わって「差別と気づかなかったので、見過ごした」が今回調査で上昇している。

また、前回調査と比べ今回調査では、「差別と気づいたが、指摘（通報）できなかった」が6.6ポイント、「差別と気づき、指摘（通報）した」が3.7ポイント低くなり、「差別と気づかなかったので、見過ごした」が7.4ポイント高くなっている。（図 2-16）

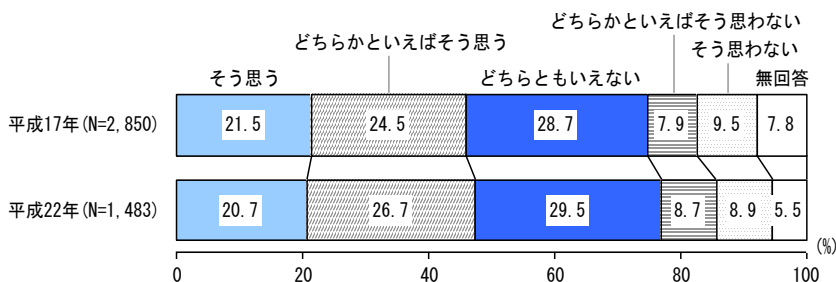
## (10) 部落差別をなくす方法に関する意見

【図 2-17 ア. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい（前回調査との比較）】



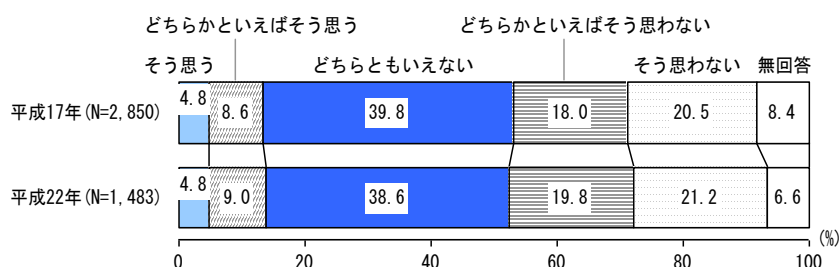
「ア. 「差別、差別」と騒がないで、そっとしておいたほうがよい」について、前回・今回とも“肯定派”が6割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が2.3ポイント低くなっている。（図 2-17）

【図 2-18 イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、部落差別はなくなる（前回調査との比較）】



「イ. 同和地区の人々が安定した仕事につき暮らしが良くなれば、部落差別はなくなる」について、前回・今回とも“肯定派”が4割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が1.4ポイント高くなっている。（図 2-18）

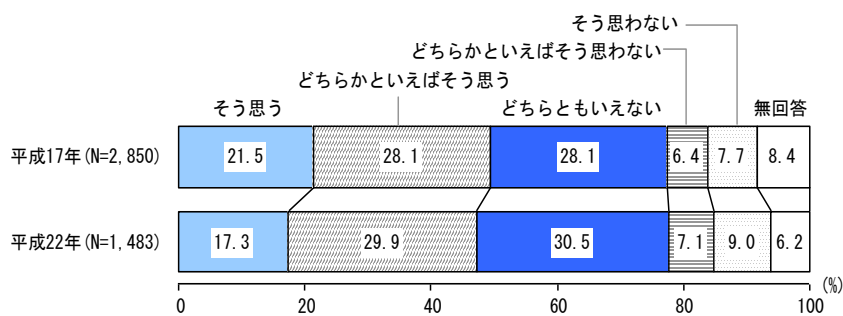
【図 2-19 ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、人々に働きかければ、差別はなくなる】



「ウ. 同和地区の人々が、もっと積極的に差別の不当性を訴えて、人々に働きかければ、差別はなくなる」について、前回・今回とも“否定派”が4割前後を占めており、ともに“肯定派”に比べ割合が高くなっている。また、今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が2.5ポイント高くなっている。

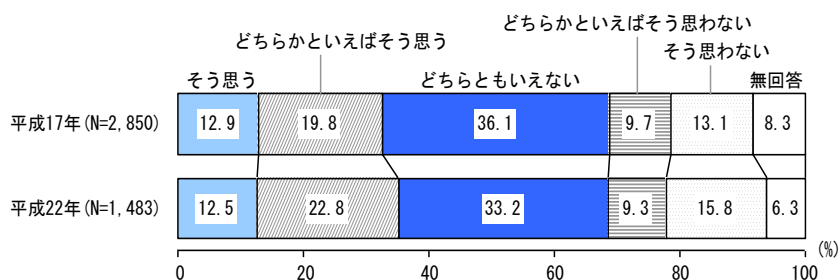
前回調査では「どちらともいえない」が最も高くなっているが、今回調査では“否定派”の割合が高くなっている。（図 2-19）

【図 2-20 エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる】



「エ. 私たちが、もっと人権意識にめざめ、差別を許さない態度と行動力を身につければ差別はなくなる」について、前回・今回とも“肯定派”が5割近くを占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が2.4ポイント低くなり、“否定派”が2.0ポイント高くなっている。(図 2-20)

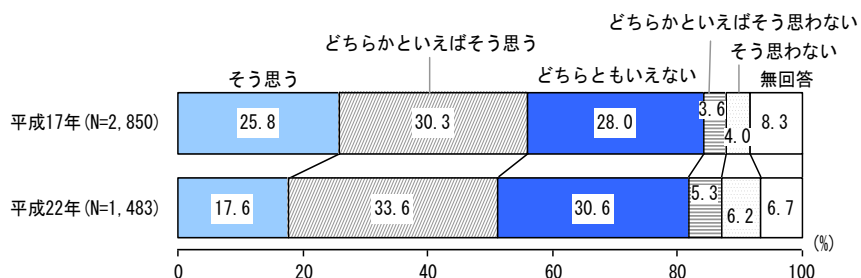
【図 2-21 オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなる】



「オ. 同和地区の人々が、分散して住むようにすれば差別はなくなる」について、前回・今回とも“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が2.6ポイント、“否定派”が2.3ポイント高くなっている。

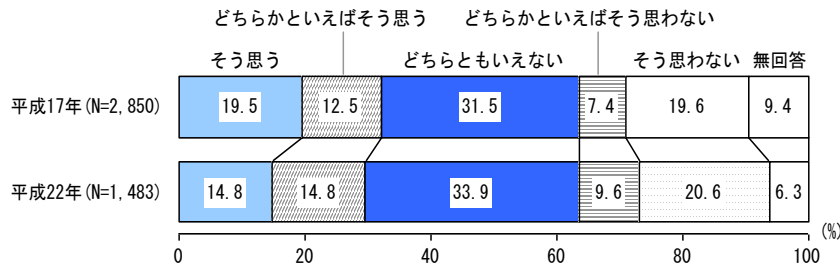
前回調査では「どちらともいえない」が最も高くなっているが、今回調査では“肯定派”の割合が高くなっている。(図 2-21)

【図 2-22 カ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める】



「カ. 同和地区と周辺地域の人々が交流を深め、協働して差別のない「まちづくり」を進める」について、前回・今回とも“肯定派”が過半数を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が4.9ポイント低くなり、“否定派”が3.9ポイント高くなっている。(図 2-22)

【図 2-23 キ. 法律で差別を禁止する】

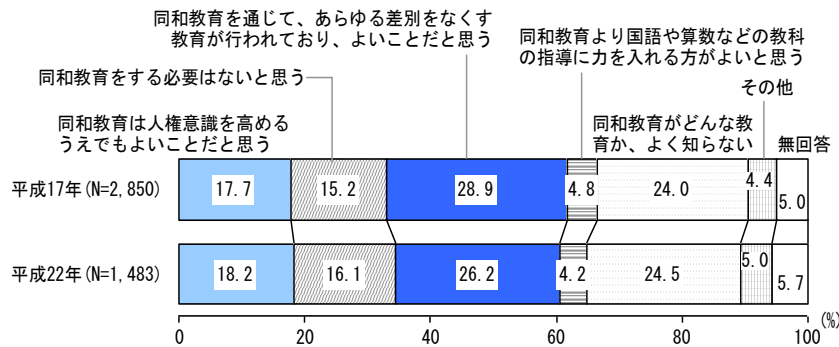


「キ. 法律で差別を禁止する」について、前回調査では“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっているが、今回調査は“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が 2.4 ポイント低くなり、“否定派”が 3.2 ポイント高くなっている。

前回調査では“肯定派”の割合が最も高くなっているが、今回調査では「どちらともいえない」が最も高くなっている。（図 2-23）

### (11) 学校での「同和教育」について

【図 2-24 学校での「同和教育」について（前回調査との比較）】



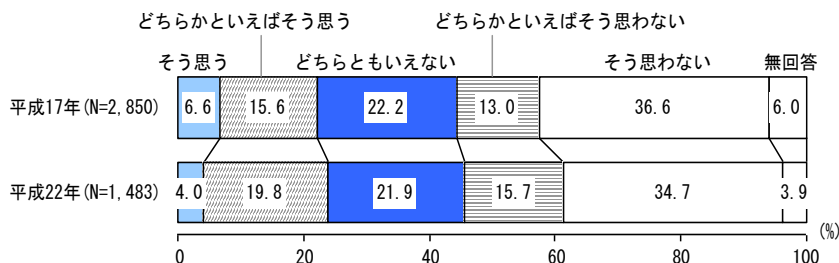
学校での「同和教育」について、前回・今回とも「同和教育を通じて、あらゆる差別をなくす教育が行われており、よいことだと思う」が最も高く、次いで「同和教育がどんな教育か、よく知らない」、「同和教育は人権意識を高めるうえでもよいことだと思う」、「同和教育をする必要はないと思う」と続いている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「同和教育を通じて、あらゆる差別をなくす教育が行われており、よいことだと思う」が 2.7 ポイント低くなっており、他はほとんど差がみられなかった。（図 2-24）

### 3 男女平等について（前回調査との比較）

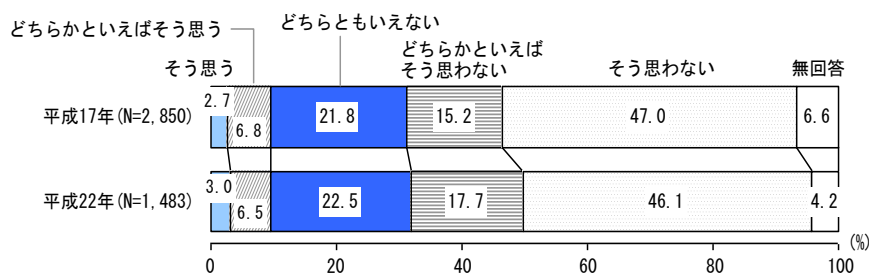
#### （1）男女平等に関する各意見についての考え方

【図 3-1 ア. 男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである（前回調査との比較）】



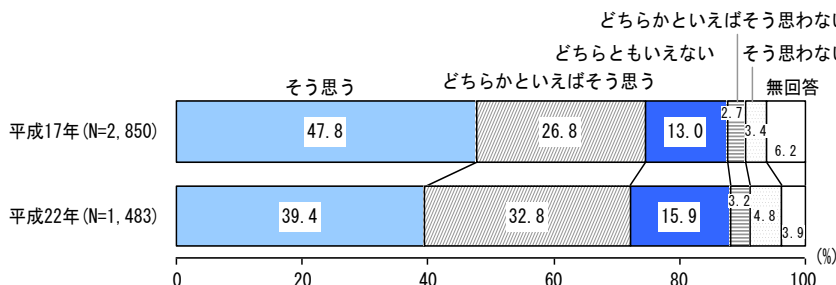
「ア. 男性は外で働き、女性は家で家事・育児をするものである」について、前回・今回とも“否定派”が5割前後を占めており、ともに“肯定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が0.8ポイント、“肯定派”が1.6ポイント高くなっている。（図 3-1）

【図 3-2 イ. 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である（前回調査との比較）】



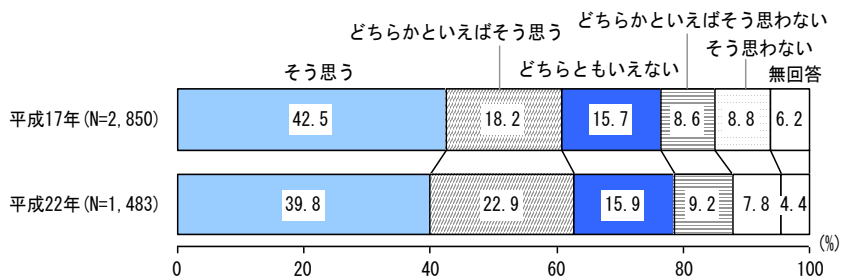
「イ. 夫の言うことに従うのが、「よい妻」である」について、前回・今回とも“否定派”が6割台を占めており、ともに“肯定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が1.6ポイント高くなっている。（図 3-2）

【図 3-3 ウ. 夫婦がお互いの親を介護するのは当然である（前回調査との比較）】



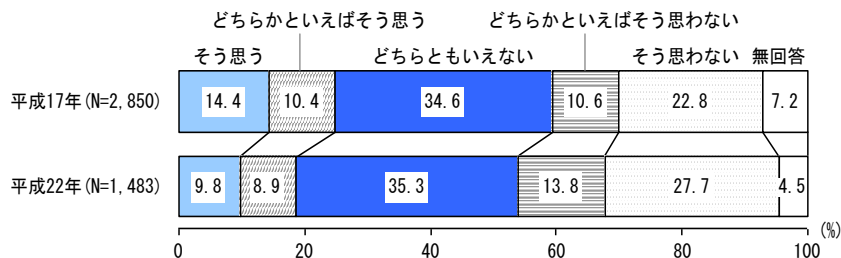
「ウ. 夫婦がお互いの親を介護するのは当然である」について、前回・今回とも“肯定派”が7割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が2.4ポイント低くなり、“否定派”が1.9ポイント高くなっている。（図 3-3）

【図 3-4 エ. 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい（前回調査との比較）】



「エ. 結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもよい」について、前回・今回とも“肯定派”が6割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が2.0ポイント高くなっている。（図 3-4）

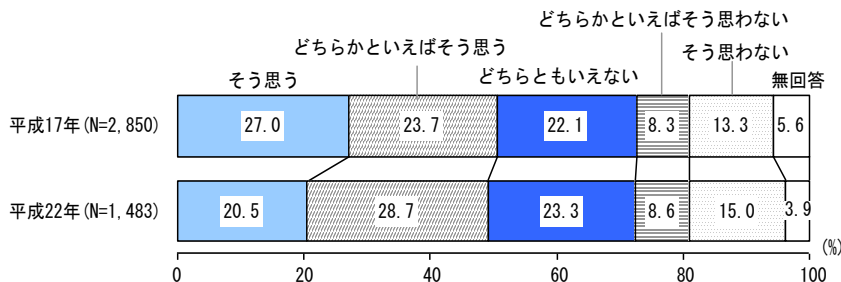
【図 3-5 オ. 夫婦別姓選択制が認められた方がよい（前回調査との比較）】



「オ. 夫婦別姓選択制が認められた方がよい」について、前回・今回とも“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が8.1ポイント高くなり、“肯定派”が6.1ポイント低くなっている。

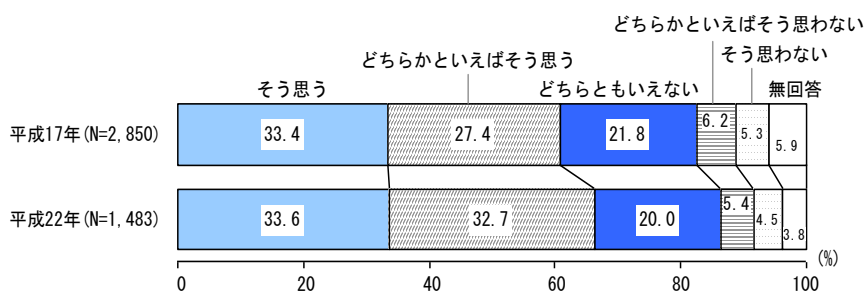
前回調査では「どちらともいえない」が最も高くなっているが、今回調査では否定的な見解が最も多かった。（図 3-5）

【図 3-6 カ. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい（前回調査との比較）】



「カ. 女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」について、前回・今回とも“肯定派”が5割前後を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。前回調査と比べ今回調査では、“肯定派”が1.5ポイント低くなり、“否定派”が2.0ポイント高くなっている。（図 3-6）

【図 3-7 キ. 男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである（前回調査との比較）】



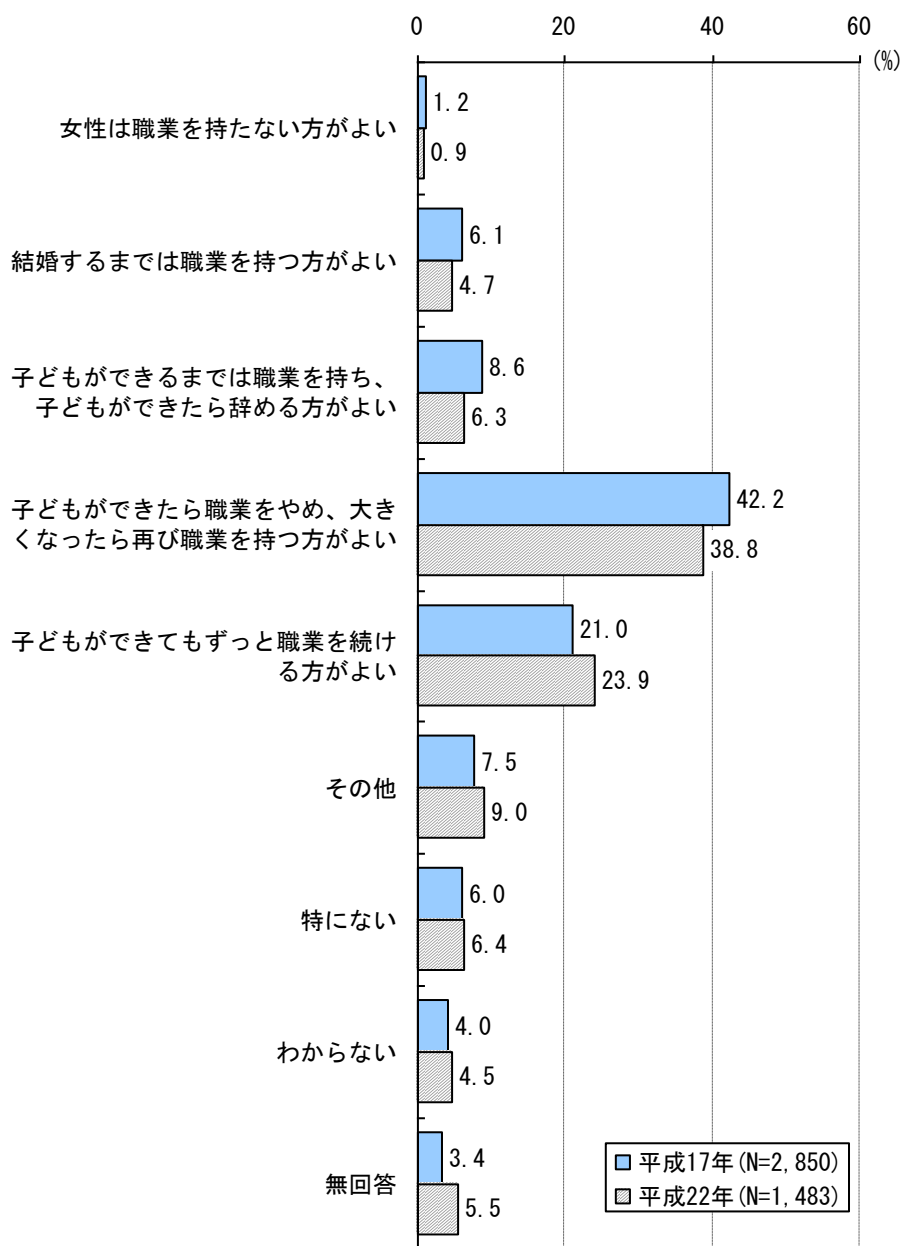
「キ. 男性も育児休業や介護休業を積極的にとるべきである」について前回・今回とも“肯定派”が6割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。

また、今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が5.5ポイント高くなっている。(図 3-7)



## (2) 女性が職業を持つことについて

【図 3-8 女性が職業を持つことについて（前回調査との比較）】

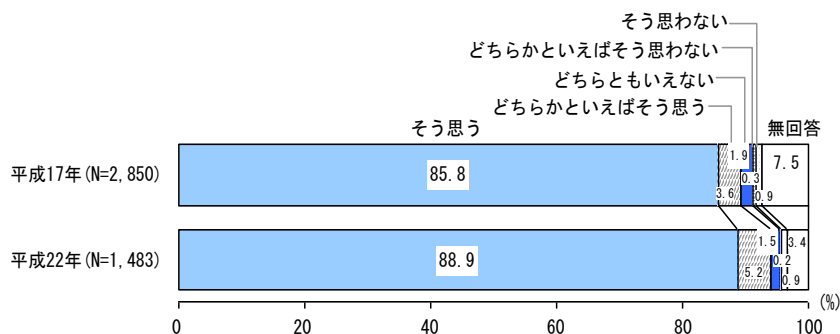


女性が職業を持つことについて、前回・今回とも「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も高く、次いで「子どもができてずっと職業を続ける方がよい」、「子どもができるまでは職業を持ち、子どもができたなら辞める方がよい」と続いている。

また、今回調査では、前回調査に比べ「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が 3.4 ポイント、「子どもができるまでは職業を持ち、子どもができたなら辞める方がよい」が 2.3 ポイント低くなり、「子どもができてずっと職業を続ける方がよい」が 2.9 ポイント高くなっている。（図 3-8）

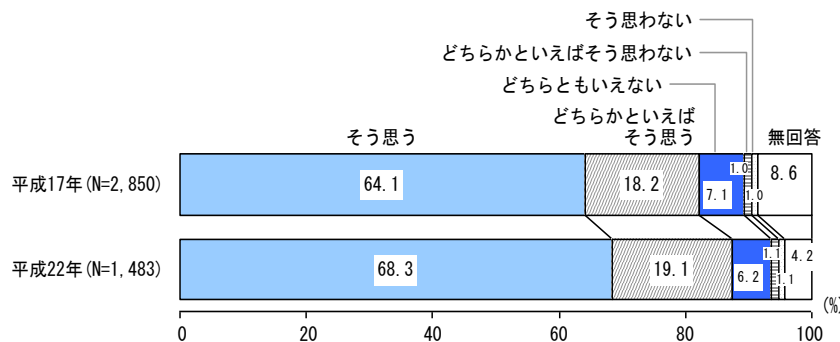
### (3) 配偶者間で行われる暴力についての考え方

【図 3-9 ア. なぐる蹴るなどの行為（前回調査との比較）】



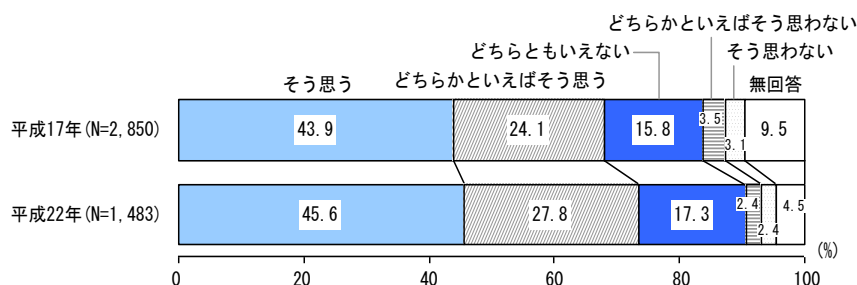
「ア. なぐる蹴るなどの行為」について、前回・今回とも“肯定派”が9割前後を占めており、ともに“否定派”を大きく上回っている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”がさらに4.7ポイント増えている。（図 3-9）

【図 3-10 イ. いやがっているのに性的なことを強要する行為（前回調査との比較）】



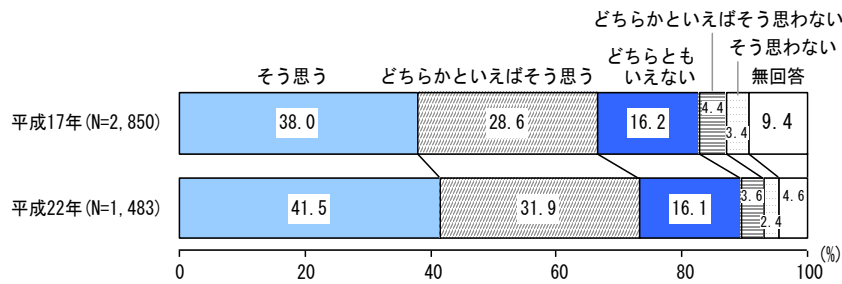
「イ. いやがっているのに性的なことを強要する行為」について、前回・今回とも“肯定派”が8割台を占めており、“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”がさらに5.1ポイント増えている。（図 3-10）

【図 3-11 ウ. 長時間無視し続ける行為（前回調査との比較）】



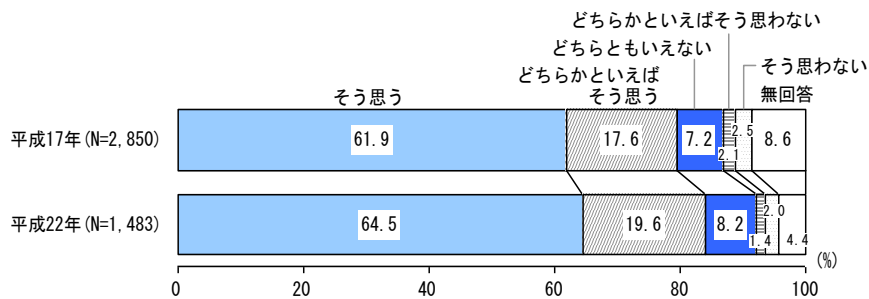
「ウ. 長時間無視し続ける行為」について、前回・今回とも“肯定派”が7割前後を占めており、“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が5.4ポイント高くなっている。（図 3-11）

【図 3-12 エ. 交友関係や電話などを細かく監視する行為（前回調査との比較）】



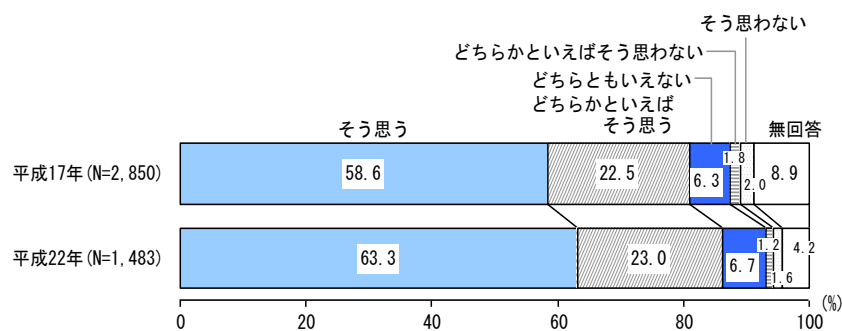
「エ. 交友関係や電話などを細かく監視する行為」について、前回・今回とも“肯定派”が6割以上を占めており、“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が6.8ポイント高くなっている。（図 3-12）

【図 3-13 オ. 生活費などを渡さない行為（前回調査との比較）】



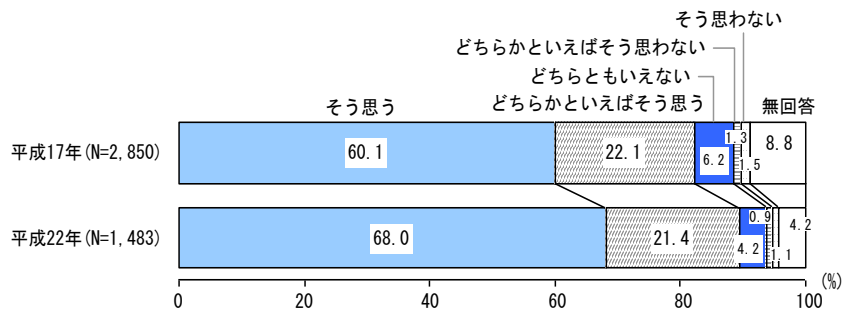
「オ. 生活費などを渡さない行為」について、前回・今回とも“肯定派”が8割前後を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が4.6ポイント高くなっている。（図 3-13）

【図 3-14 カ. 「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為（前回調査との比較）】



「カ. 「甲斐性なし」、「誰のおかげで生活できるんだ」等くりかえし言う行為」について、前回・今回とも“肯定派”が8割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が5.2ポイント高くなっている。（図 3-14）

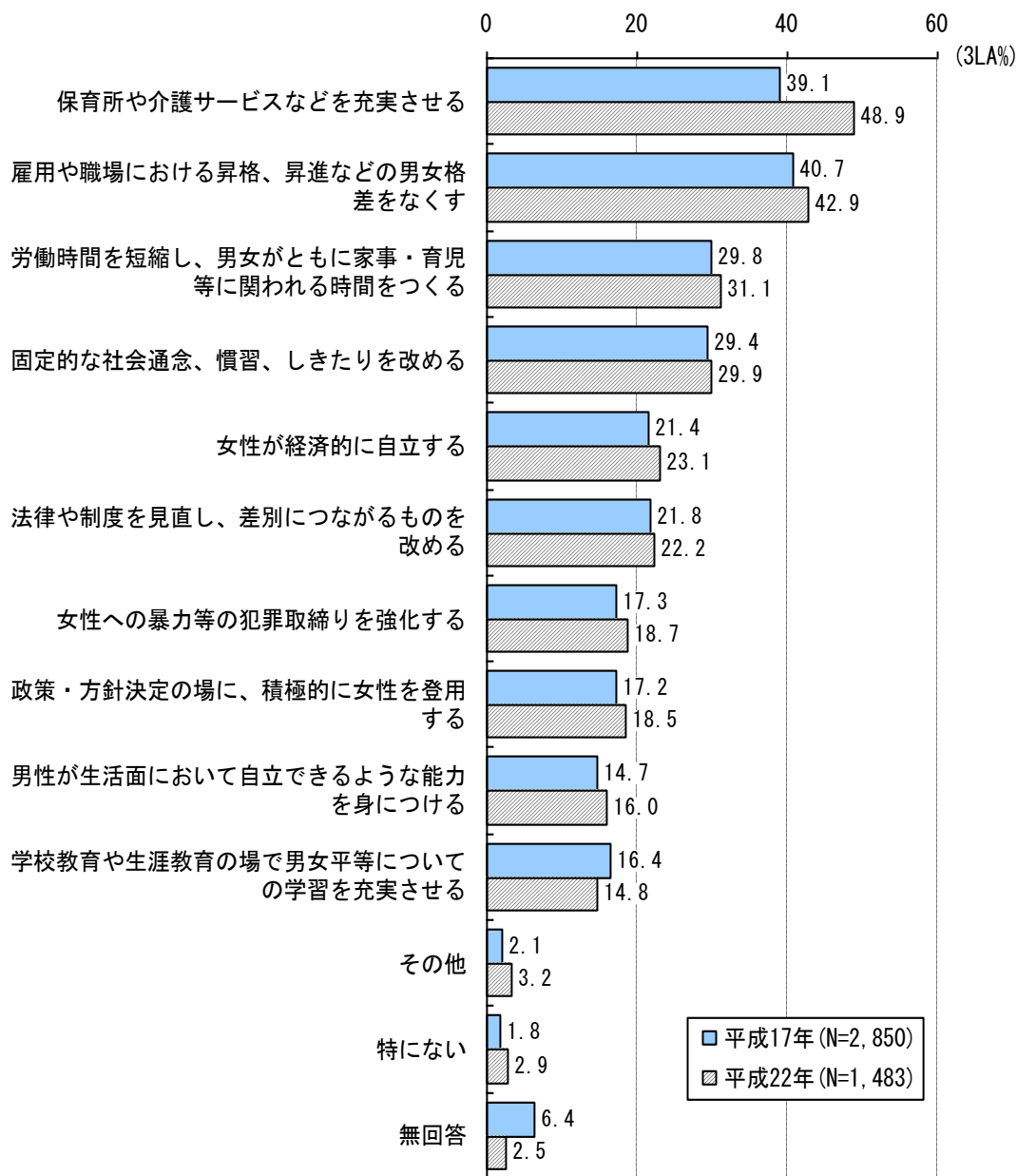
【図 3-15 キ. なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為（前回調査との比較）】



「キ. なぐるふりをしたり、大声でどなったりする等威嚇する行為」について、前回・今回とも“肯定派”が8割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が7.2ポイント高くなっている。（図 3-15）

#### (4) 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと

【図 3-16 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なこと（前回調査との比較）】



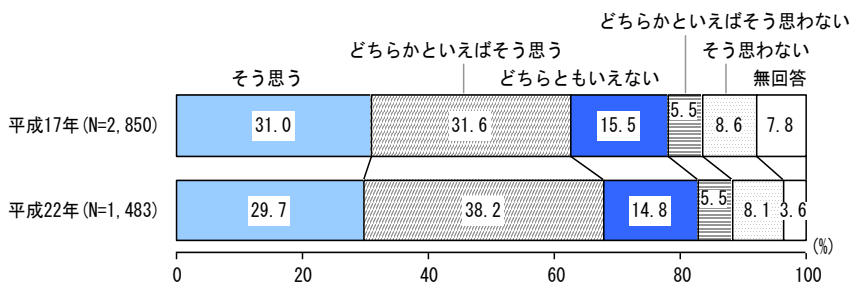
今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために重要なことについて、前回調査と比較すると、前回調査で第2位の「保育所や介護サービスなどを充実させる」が、前回調査で第1位の「雇用や職場における昇格、昇進などの男女格差をなくす」と入れ代わり、今回調査では最も高くなっている。これらに次いで前回・今回とも「労働時間を短縮し、男女がともに家事・育児等に関われる時間をつくる」、「固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」と続いている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「保育所や介護サービスなどを充実させる」が 9.8 ポイント、「雇用や職場における昇格、昇進などの男女格差をなくす」が 2.2 ポイント高くなっている。（図 3-16）

## 4 子どもの人権について（前回調査との比較）

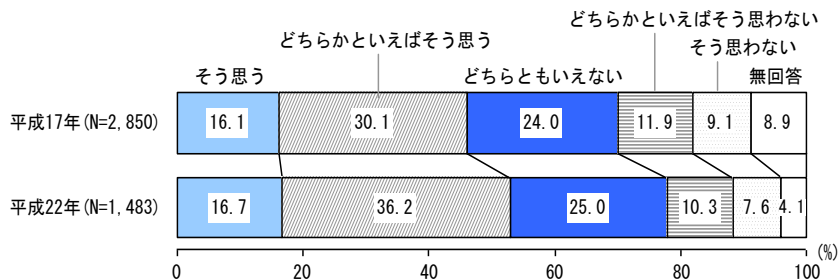
### （1）子どもに対する各意見についての考え方

【図 4-1 ア. 場合によっては、教師が生徒に体罰を加えることも認められるべきである（前回調査との比較）】



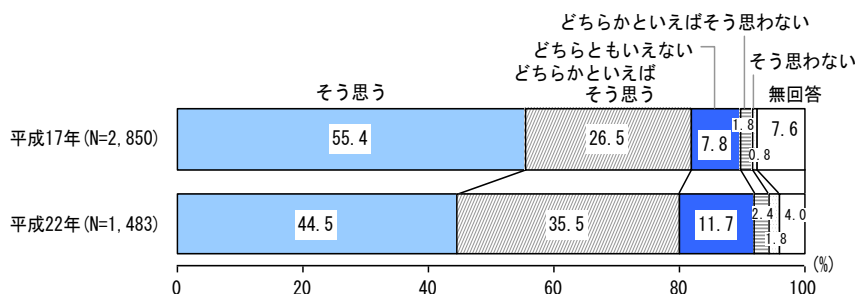
「ア. 場合によっては、教師が生徒に体罰を加えることも認められるべきである」について、前回・今回とも“肯定派”が6割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が5.3ポイント高くなっている。（図 4-1）

【図 4-2 イ. 過剰な干渉と思われる校則でも、学校教育では必要である（前回調査との比較）】



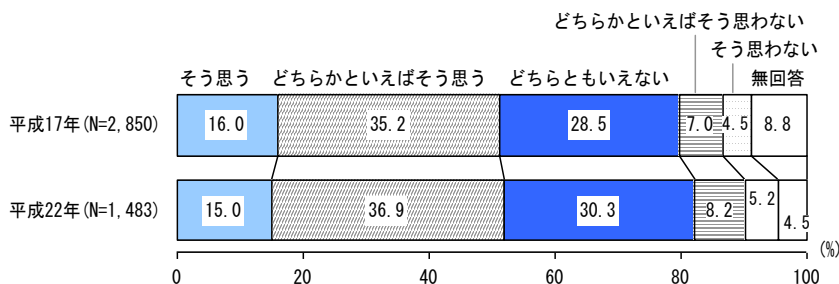
「イ. 過剰な干渉と思われる校則でも、学校教育では必要である」について、前回・今回とも“肯定派”が4割以上を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が6.7ポイント高くなり、“否定派”が3.1ポイント低くなっている。（図 4-2）

【図 4-3 ウ. 少年が凶悪犯罪を犯した場合には、大人と同様に厳しい罰則を適用し、刑事責任をとらせるべきである（前回調査との比較）】



「ウ. 少年が凶悪犯罪を犯した場合には、大人と同様に厳しい罰則を適用し、刑事責任をとらせるべきである」について、前回・今回とも“肯定派”が8割台を占めており、“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が1.9ポイント低くなり、“否定派”が1.6ポイント高くなっている。（図 4-3）

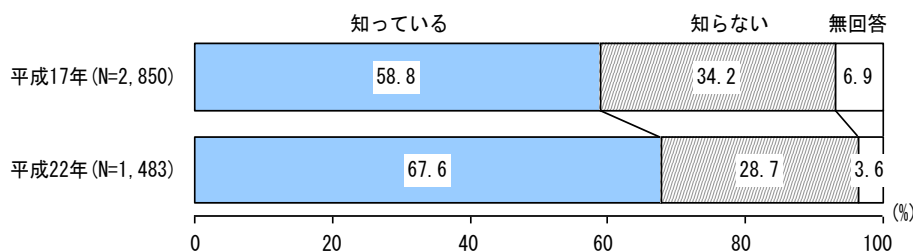
【図4-4 エ. 子どもは親に養われ、教えを諭される存在であるから親の助言や意見に従うべきである（前回調査との比較）】



「エ. 子どもは親に養われ、教えを諭される存在であるから親の助言や意見に従うべきである」について、前回・今回とも“肯定派”が過半数を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が0.7ポイント、“否定派”が1.9ポイント高くなっている。（図4-4）

（2）子どもが虐待を受けていると知った場合の通知義務の認知状況

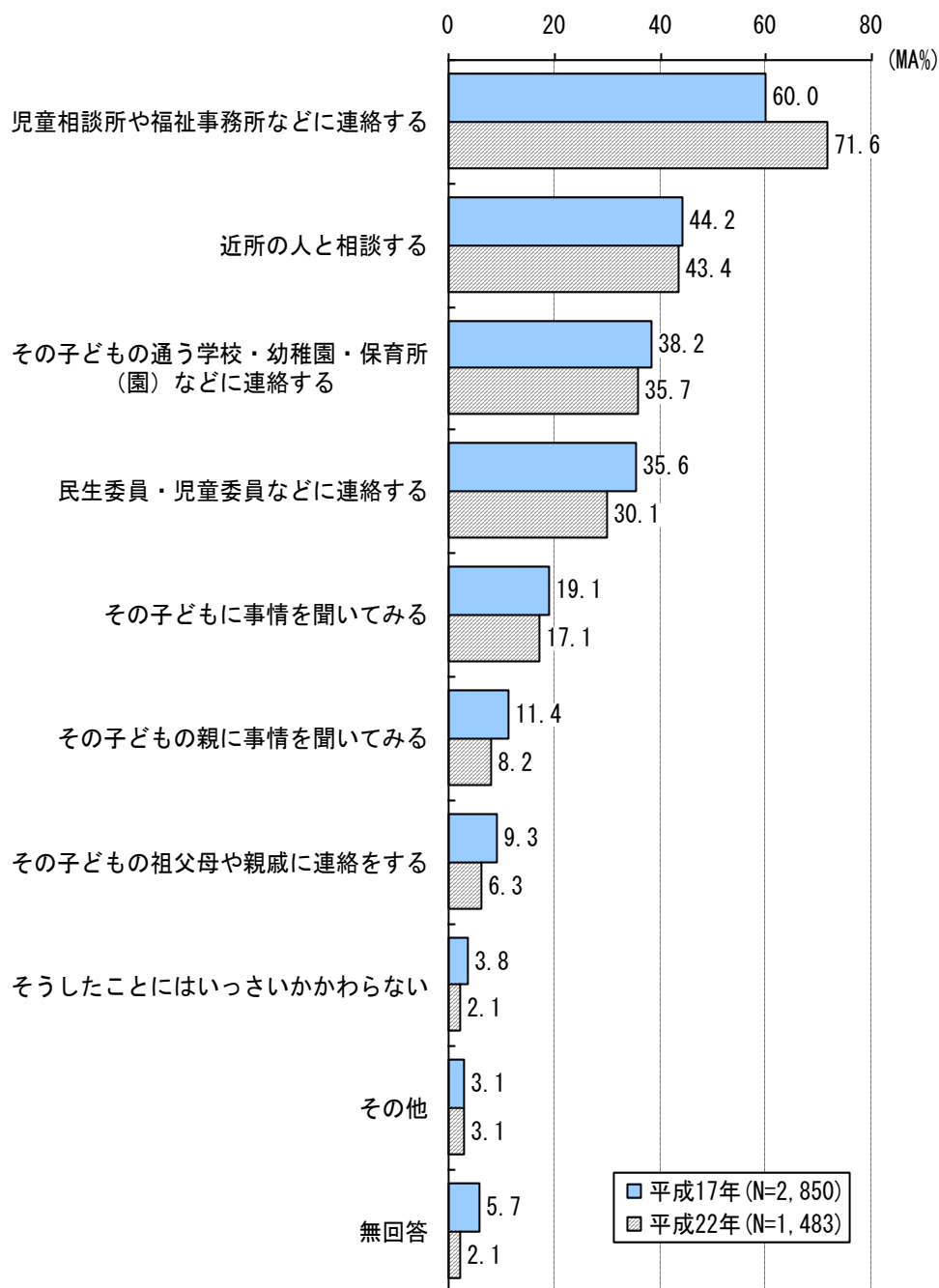
【図4-6 子どもが虐待を受けていると知った場合の通知義務の認知状況（前回調査との比較）】



子どもが虐待を受けていると知った場合の通知義務の認知状況について、前回・今回とも「知っている」が過半数を占めており、「知らない」に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「知っている」が8.8ポイント高くなり、「知らない」が5.5ポイント低くなっている。（図4-6）

### (3) 子どもが虐待を受けていると知った場合の行動

【図 4-7 子どもが虐待を受けていると知った場合の行動（前回調査との比較）】



子どもが虐待を受けていると知った場合の行動について、前回・今回とも「児童相談所や福祉事務所などに連絡する」が最も高く、次いで「近所の人と相談する」、「その子どもの通う学校・幼稚園・保育所（園）などに連絡する」、「民生委員・児童委員などに連絡する」と続いている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「児童相談所や福祉事務所などに連絡する」が11.6ポイント高くなり、「民生委員・児童委員などに連絡する」が5.5ポイント低くなっている。

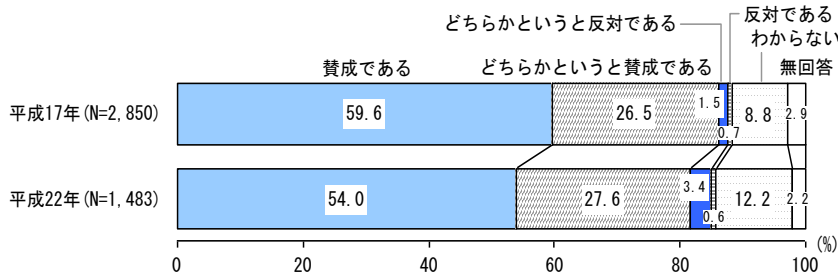
(図 4-7)



## 5 障害のある人の人権について（前回調査との比較）

### （1）「ノーマライゼーション」の考え方に基づいた環境づくり

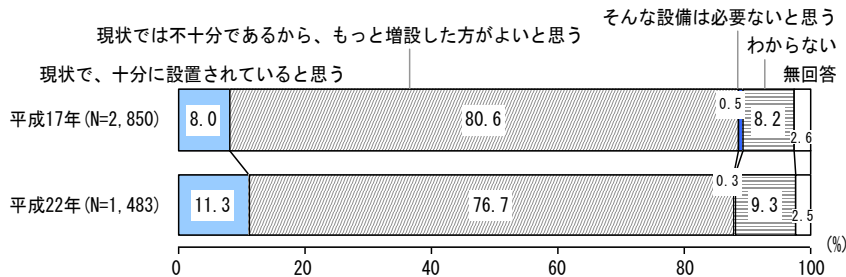
【図 5-1 「ノーマライゼーション」の考え方に基づいた環境づくり（前回調査との比較）】



「ノーマライゼーション」の考え方に基づいた環境づくりについて、前回・今回とも“賛成派”が8割台を占めており、“反対派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“賛成派”が4.5ポイント低くなり、“反対派”が1.8ポイント高くなっている。（図 5-1）

### （2）街なかでの障害のある人のための設備についての考え方

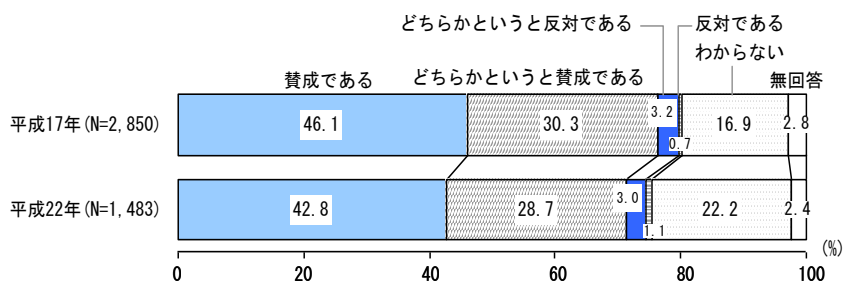
【図 5-2 街なかでの障害のある人のための設備についての考え方（前回調査との比較）】



街なかでの障害のある人のための設備についての考え方について、前回・今回とも「現状では不十分であるから、もっと増設の方がよいと思う」が最も高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「現状では不十分であるから、もっと増設の方がよいと思う」が3.9ポイント低くなり、「現状で、十分に設置されていると思う」が3.3ポイント高くなっている。（図 5-2）

### (3) 身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方

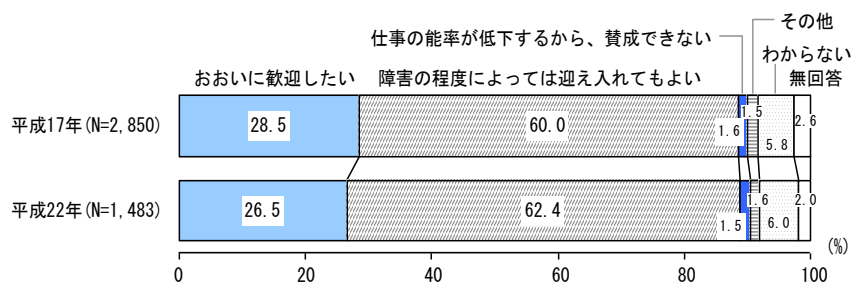
【図 5-3 身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方（前回調査との比較）】



身近に障害のある人のための施設が建設される場合の考え方について、ともに“賛成派”が7割台を占めており、“反対派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“賛成派”が4.9ポイント低くなっているため、市民の理解を進める必要があるだろう。（図 5-3）

### (4) 職場で障害のある人と一緒に働くこと

【図 5-4 職場で障害のある人と一緒に働くこと（前回調査との比較）】

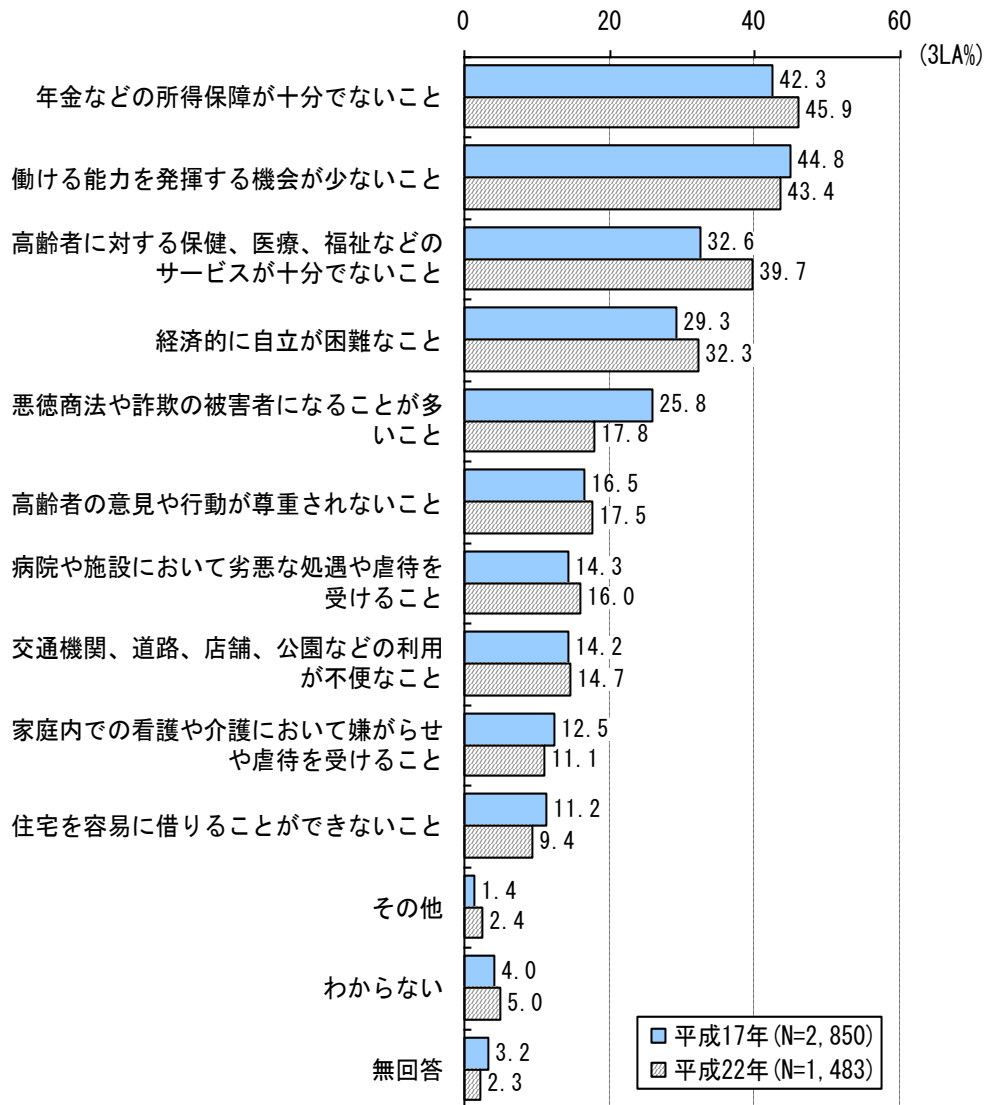


職場で障害のある人と一緒に働くことについて、前回・今回とも「障害の程度によっては迎え入れてもよい」が最も高く、次いで「おおいに歓迎したい」、「仕事能率が低下するから、賛成できない」と続いている。今回調査では、前回調査に比べ「障害の程度によっては迎え入れてもよい」が2.4ポイント高くなり、「おおいに歓迎したい」が2.0ポイント低くなっている。（図 5-4）

## 6 高齢者の人権について（前回調査との比較）

### （1）高齢者の人権が尊重されていないと思うこと

【図 6-1 高齢者の人権が尊重されていないと思うこと（前回調査との比較）】

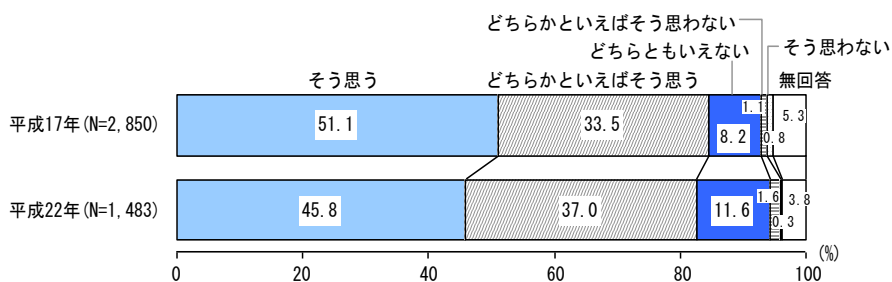


高齢者の人権が尊重されていないと思うことについて、前回調査と比較すると、前回調査で第2位の「年金などの所得保障が十分でないこと」が、前回調査で第1位の「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」と入れ代わり、今回調査では最も高くなっている。これらに次いで前回・今回とも「高齢者に対する保健、医療、福祉などのサービスが十分でないこと」、「経済的に自立が困難なこと」、「悪徳商法や詐欺の被害者になることが多いこと」と続いている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「年金などの所得保障が十分でないこと」が3.6ポイント、「高齢者に対する保健、医療、福祉などのサービスが十分でないこと」が7.1ポイント、「経済的に自立が困難なこと」が3.0ポイント高くなり、「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」が1.4ポイント、「悪徳商法や詐欺の被害者になることが多いこと」が8.0ポイント低くなっている。（図 6-1）

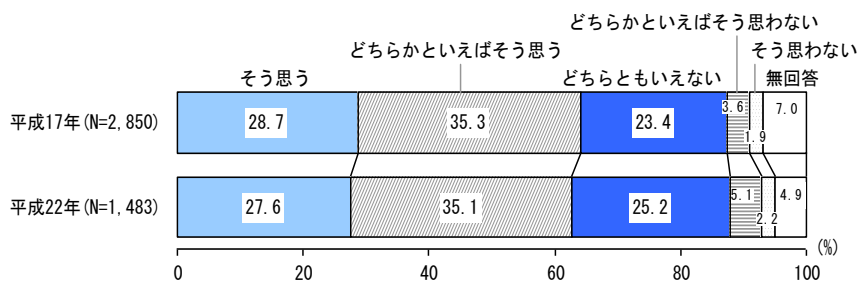
## (2) 高齢者の自立した生活や社会参加などに関する意見に対する考え方

【図 6-2 イ. 心身に衰えが生じても、本人が望めば、長年親しんできた地域で暮らすほうがよい（前回調査との比較）】



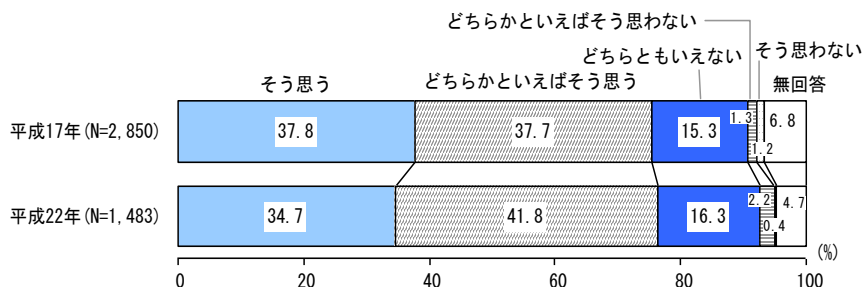
「イ. 心身に衰えが生じても、本人が望めば、長年親しんできた地域で暮らすほうがよい」について、前回・今回とも“肯定派”が8割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が1.8ポイント低くなっている。（図 6-2）

【図 6-3 ウ. まちや建物のつくりは高齢者に対する配慮に欠けている（前回調査との比較）】



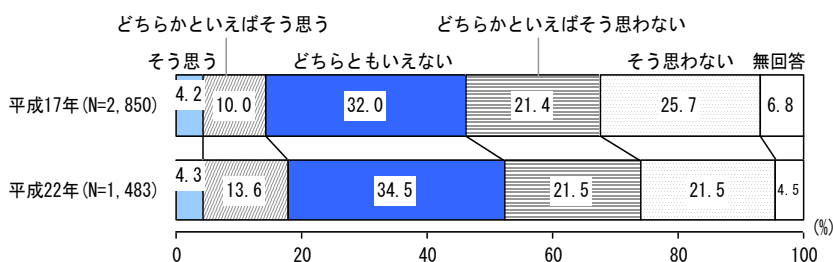
「ウ. まちや建物のつくりは高齢者に対する配慮に欠けている」について、前回・今回とも“肯定派”が6割台を占めており、“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が1.3ポイント低くなり、ともに“否定派”が1.8ポイント高くなっている。（図 6-3）

【図 6-4 エ. 高齢者が社会参加できる場を増やすべきである（前回調査との比較）】



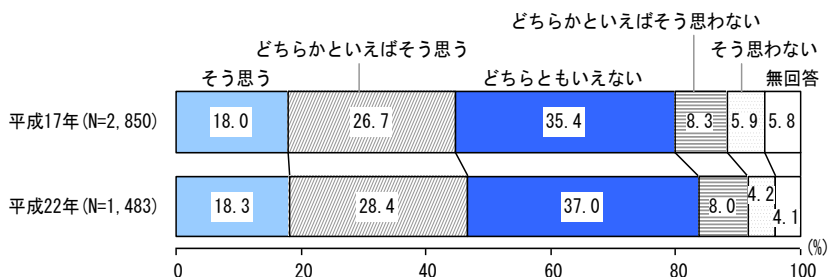
「エ. 高齢者が社会参加できる場を増やすべきである」について、前回・今回とも“肯定派”が7割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が1.0ポイント高くなっている。（図 6-4）

【図 6-5 オ. 年をとると頑固になるので、家族から孤立してもしかたない（前回調査との比較）】



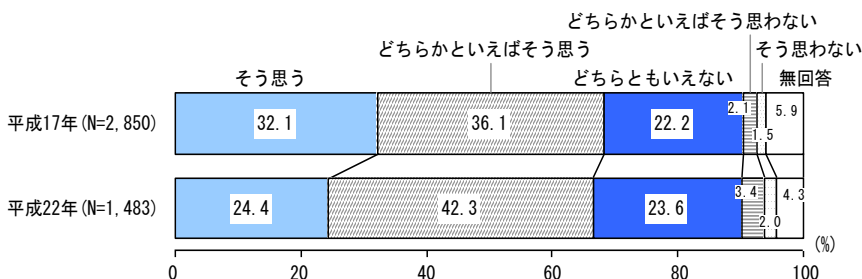
「オ. 年をとると頑固になるので、家族から孤立してもしかたない」について、前回・今回とも“否定派”が4割台を占めており、ともに“肯定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が4.1ポイント低くなり、“肯定派”が3.7ポイント高くなっている。（図 6-5）

【図 6-6 カ. 介護を必要とする状況になれば、施設などに入所する方がよい（前回調査との比較）】



「カ. 介護を必要とする状況になれば、施設などに入所する方がよい」について、前回・今回とも“肯定派”が4割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が2.0ポイント高くなっている。（図 6-6）

【図 6-7 キ. 近くに高齢者のみの世帯が居住していれば声をかけたり、配慮しようと思う（前回調査との比較）】

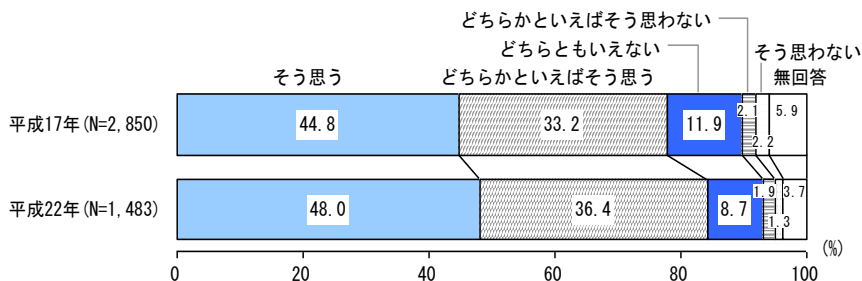


「キ. 近くに高齢者のみの世帯が居住していれば声をかけたり、配慮しようと思う」について、前回・今回とも“肯定派”が6割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が1.5ポイント低くなり、“否定派”が1.8ポイント高くなっている。（図 6-7）

## 7 日本に住む外国人の人権について（前回調査との比較）

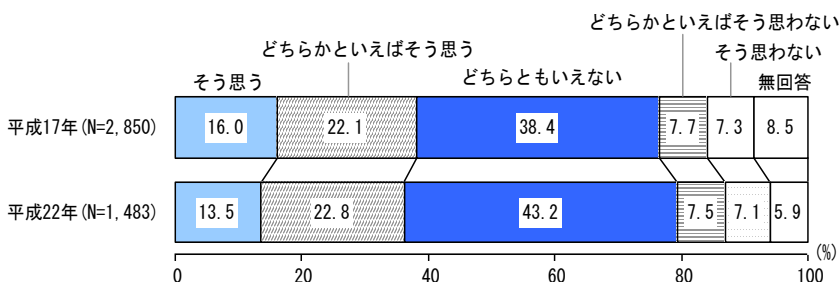
### （1）日本に住む外国人の人権を守ることに関する意見に対する考え方

【図 7-1 ア. 互いに文化・習慣のちがいを理解する（前回調査との比較）】



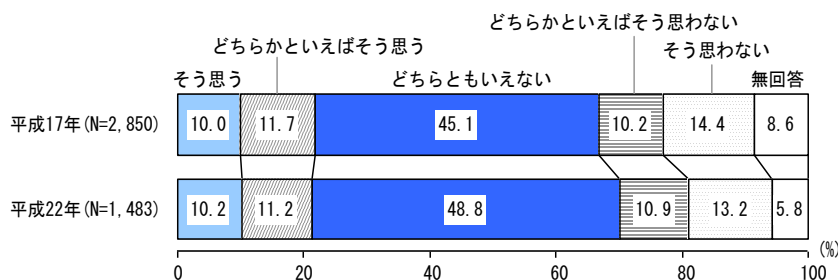
「ア. 互いに文化・習慣のちがいを理解する」について、前回・今回とも“肯定派”が8割前後を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が6.4ポイント高くなっている。（図 7-1）

【図 7-2 イ. 法律や制度を見直す（前回調査との比較）】



「イ. 法律や制度を見直す」について、前回・今回とも“肯定派”が“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”が1.8ポイント、“否定派”が0.4ポイント低くなっている。前回・今回とも「どちらともいえない」が4割前後と最も高く、今回調査が前回調査に比べ4.8ポイント高くなっている。（図 7-2）

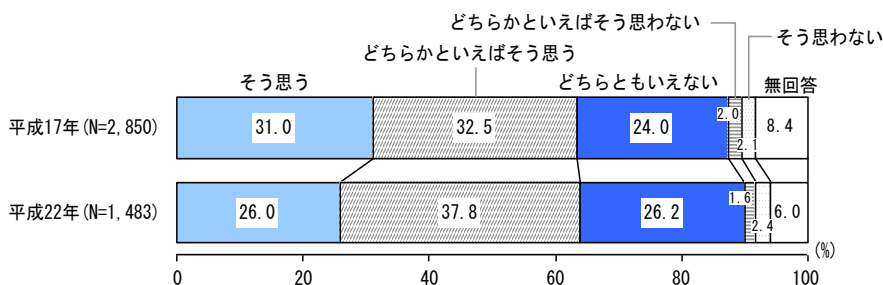
【図 7-3 ウ. 日本国籍を取得する（前回調査との比較）】



「ウ. 日本国籍を取得する」について、前回・今回とも“否定派”が“肯定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“否定派”が0.5ポイント、“肯定派”が0.3ポイント低くなっている。

前回・今回とも「どちらともいえない」が4割台と最も高く、今回調査が前回調査に比べ3.7ポイント高くなっている。（図 7-3）

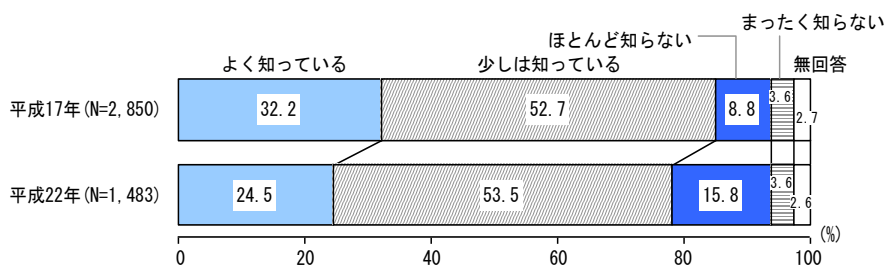
【図 7-4 エ. 国際理解教育を進める（前回調査との比較）】



「エ. 国際理解教育を進める」について、前回・今回とも“肯定派”が6割台を占めており、ともに“否定派”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“肯定派”、“否定派”ともほとんど差はみられない。（図 7-4）

## （2）戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況

【図 7-5 戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知状況】

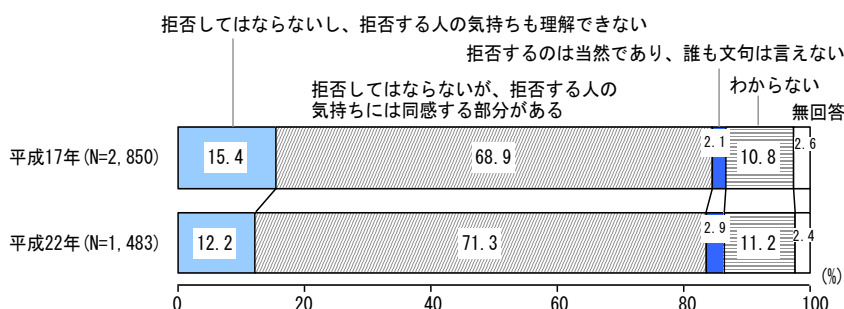


戦前、日本が朝鮮半島などにおいて植民地政策をしていたことの認知度について、前回・今回とも“知っている”が8割前後を占めており、ともに“知らない”に比べ割合が高くなっている。

また、今回調査では、前回調査と比べ“知っている”が6.9ポイント低くなり、“知らない”が7.0ポイント高くなっている。（図 7-5）

### (3) 日本人が外国人に部屋を貸すことを拒否することに対する考え方

【図 7-6 日本人が外国人に部屋を貸すことを拒否することに対する考え方（前回調査との比較）】

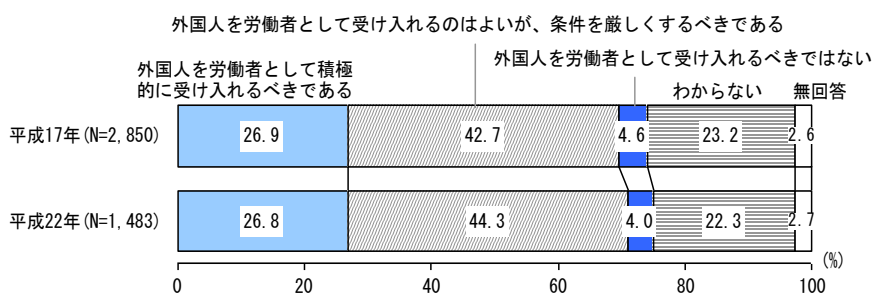


外国人に部屋を貸与する際に拒否することへの考え方について、前回・今回とも「拒否してはならないが、拒否する人の気持ちには同感する部分がある」が最も高くなっている。次いで、「拒否してはならないし、拒否する人の気持ちも理解できない」、「拒否するのは当然であり、誰も文句は言えない」と続いている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「拒否してはならないが、拒否する人の気持ちには同感する部分がある」が 2.4 ポイント、「拒否するのは当然であり、誰も文句は言えない」が 0.8 ポイント高くなり、「拒否してはならないし、拒否する人の気持ちも理解できない」が 3.2 ポイント低くなっている。（図 7-6）

### (4) 外国人を労働者として受け入れることに対する考え方

【図 7-7 外国人を労働者として受け入れることに対する考え方（前回調査との比較）】



外国人を労働者として受け入れることについて、前回調査と比較すると、前回・今回とも「外国人を労働者として受け入れるのはよいが、条件を厳しくするべきである」が最も高く、次いで「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」、「外国人を労働者として受け入れるべきではない」となっている。

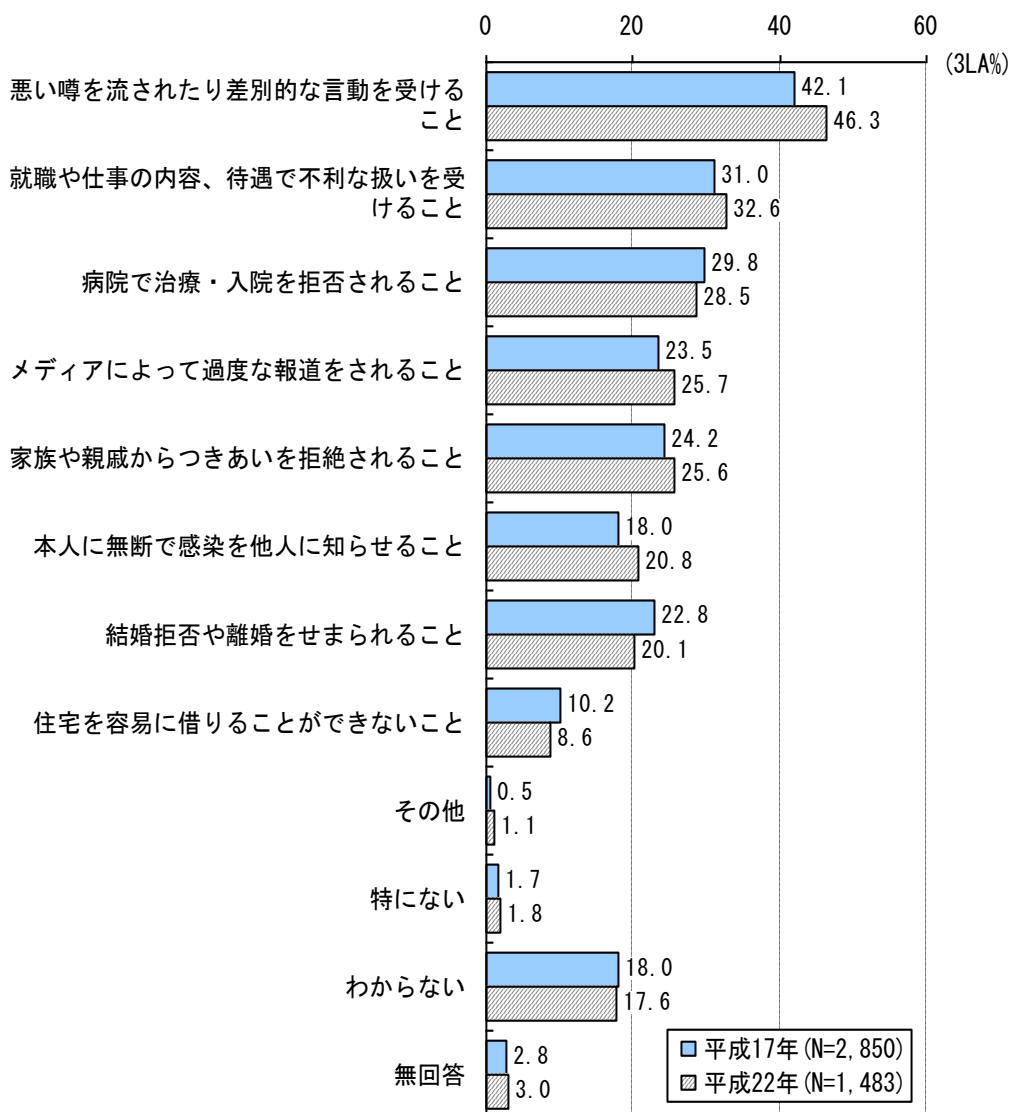
また、今回調査では、前回調査と比べ「外国人を労働者として受け入れるのはよいが、条件を厳しくするべきである」が 1.6 ポイント高くなり、「外国人を労働者として受け入れるべきではない」が 0.6 ポイント低く、「外国人を労働者として積極的に受け入れるべきである」ではほとんど差はみられない。（図 7-7）



## 8 さまざまな人権問題について（前回調査との比較）

### （1）特定の疾患の方の人権が尊重されていないと思うこと

【図 8-1 特定の疾患の方の人権が尊重されていないと思うこと（前回調査との比較）】



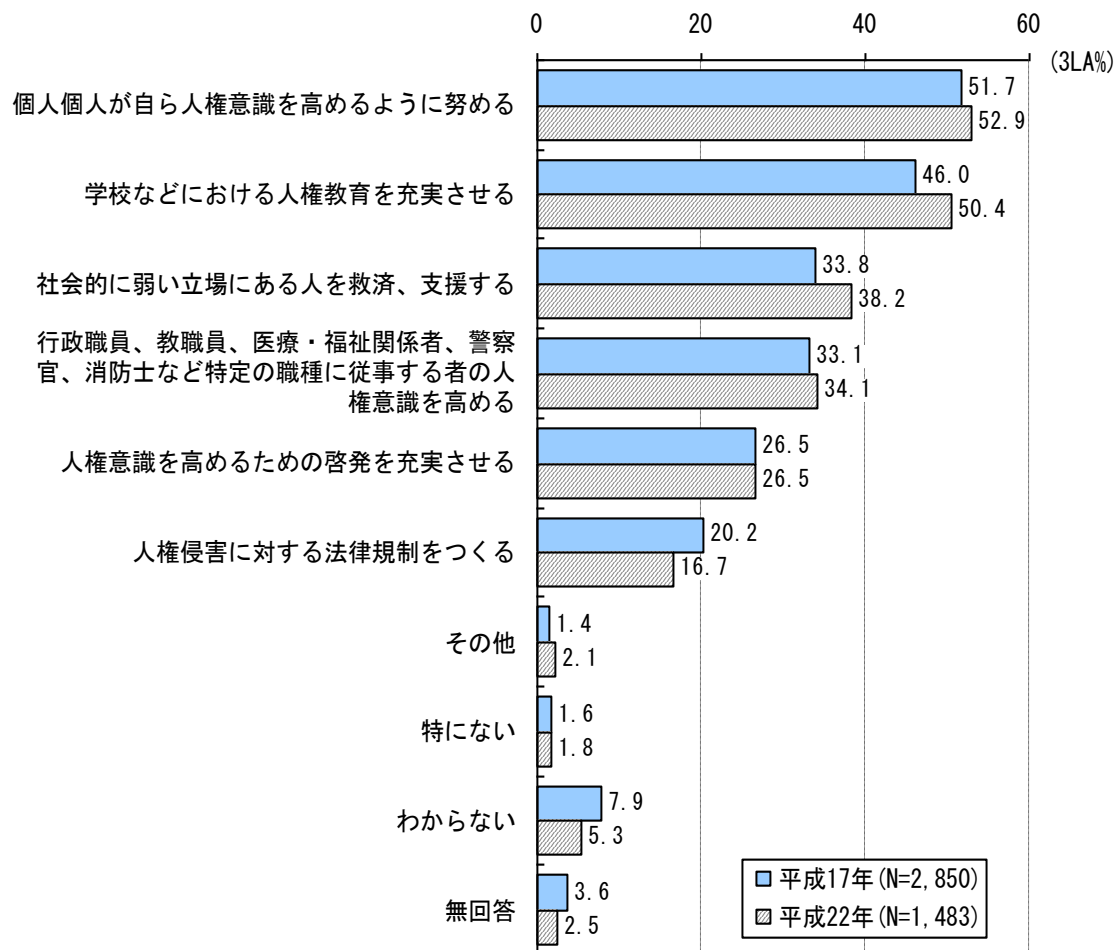
特定の疾患の方の人権が尊重されていないと思うことについて、前回・今回とも「悪い噂を流されたり差別的な言動を受けること」が最も高く、次いで「就職や仕事の内容、待遇で不利な扱いを受けること」、「病院で治療・入院を拒否されること」と続いている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「悪い噂を流されたり差別的な言動を受けること」が 4.2 ポイント、「メディアによって過度な報道をされること」が 2.2 ポイント、「本人に無断で感染を他人に知らせること」が 2.8 ポイント高くなり、「結婚拒否や離婚をせまられること」が 2.7 ポイント低くなっている。（図 8-1）

## 9 人権問題の啓発活動について（前回調査との比較）

### （1）人権が尊重される社会を実現させるために必要な取り組み

【図 9-1 人権が尊重される社会を実現させるために必要な取り組み（前回調査との比較）】

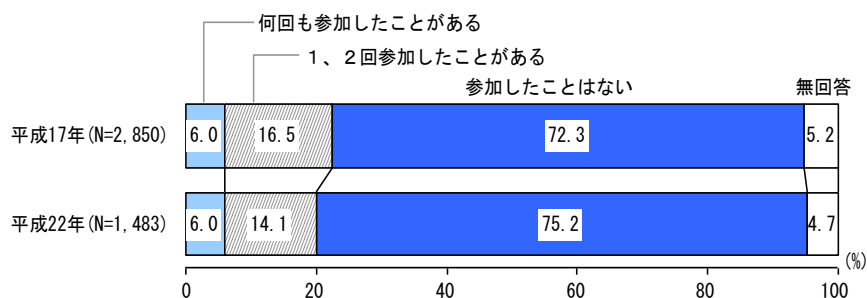


人権が尊重される社会を実現させるために必要な取り組みについて、前回・今回とも「個人個人が自ら人権意識を高めるように努める」が最も高く、次いで「学校などにおける人権教育を充実させる」、「社会的に弱い立場にある人を救済、支援する」、「行政職員、教職員、医療・福祉関係者、警察官、消防士など特定の職種に従事する者の人権意識を高める」と続いている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「個人個人が自ら人権意識を高めるように努める」が 1.2 ポイント、「学校などにおける人権教育を充実させる」が 4.4 ポイント、「社会的に弱い立場にある人を救済、支援する」が 4.4 ポイント高くなり、「人権侵害に対する法律規制をつくる」が 3.5 ポイント低くなっている。（図 9-1）

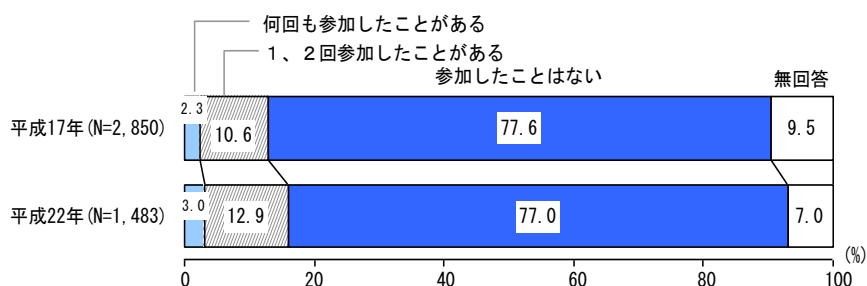
## (2) 人権問題の啓発活動への参加状況

【図 9-2 ア. 講演会、研修会、シンポジウム（前回調査との比較）】



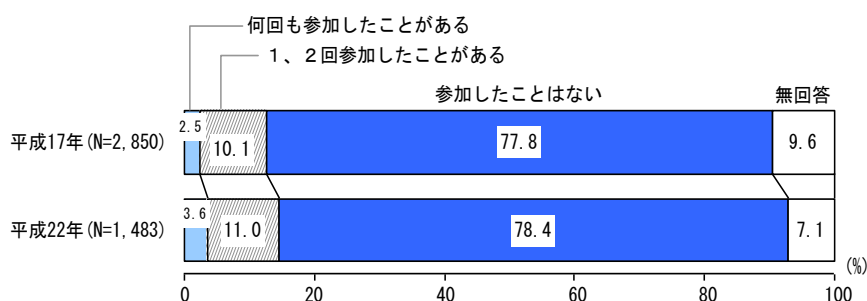
「ア. 講演会、研修会、シンポジウム」について、前回・今回とも「参加したことはない」が7割台で最も高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「参加したことはない」が2.9ポイント高くなり、「1、2回参加したことがある」が2.4ポイント低くなっている。「何回も参加したことがある」では同率となっている。（図 9-2）

【図 9-3 イ. 参加・体験型の学習機会（車イス体験やグループ学習等）（前回調査との比較）】



「イ. 参加・体験型の学習機会（車イス体験やグループ学習等）」について、前回・今回とも「参加したことはない」が7割台で最も高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「参加したことはない」が0.6ポイント低くなり、「参加したことがある」では3.0ポイント高くなっている。（図 9-3）

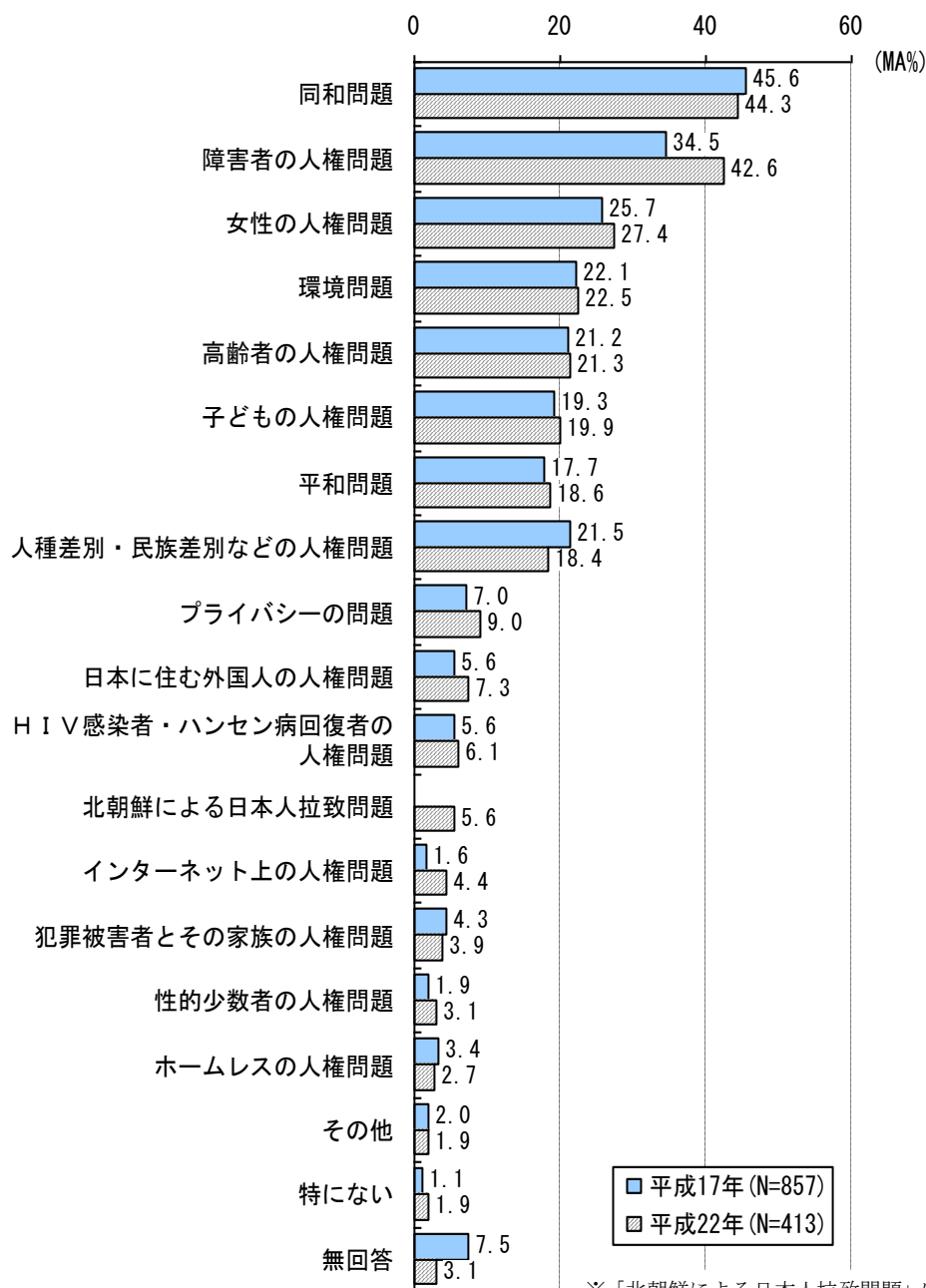
【図 9-4 ウ. 駅頭啓発活動、区民まつりや平和や人権展等におけるパネル展示（前回調査との比較）】



「ウ. 駅頭啓発活動、区民まつりや平和や人権展等におけるパネル展示」について、前回調査と比較すると、前回・今回とも「参加したことはない」が7割台で最も高くなっている。また、今回調査では、前回調査と比べ「参加したことはない」が0.6ポイント、「参加したことがある」が2.0ポイント高くなっている。（図 9-4）

### (3) 参加したことがあるテーマ

【図 9-5 参加したことがあるテーマ（前回調査との比較）】



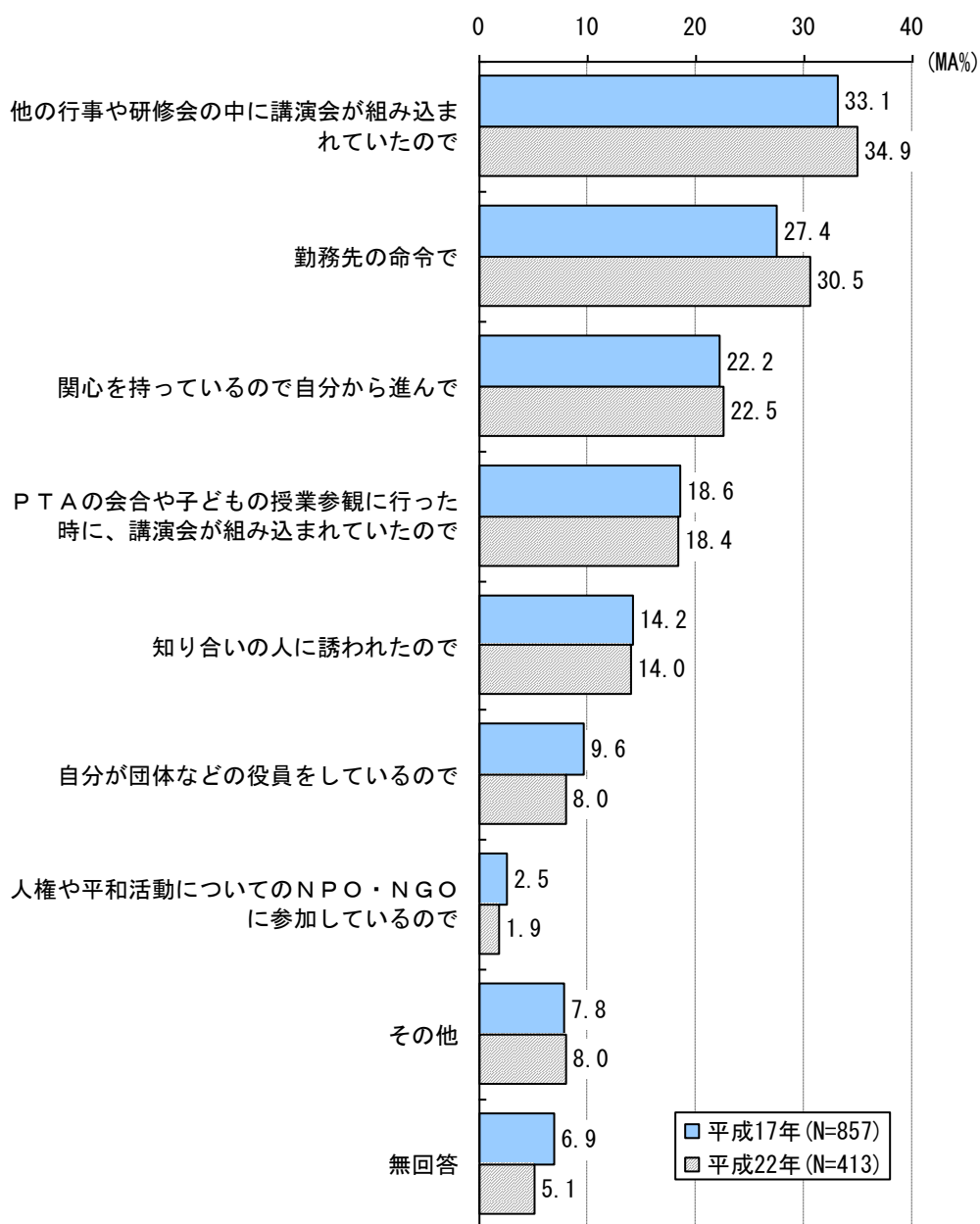
※「北朝鮮による日本人拉致問題」は、平成 22 年に新しく追加した項目のため、平成 17 年にはない。

参加したことがあるテーマについて、前回調査と比較すると、「同和問題」が最も高く、次いで「障害者の人権問題」、「女性の人権問題」、「環境問題」と続いており、前回調査で第 5 位の「人種差別・民族差別などの人権問題」が、今回調査で第 8 位に下がっている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「同和問題」が 1.3 ポイント、「人種差別・民族差別などの人権問題」が 3.1 ポイントと低くなり、「障害者の人権問題」が 8.1 ポイント、「プライバシーの問題」が 2.0 ポイント、「インターネット上の人権問題」が 2.8 ポイント高くなっている。（図 9-5）

#### (4) 参加したきっかけ

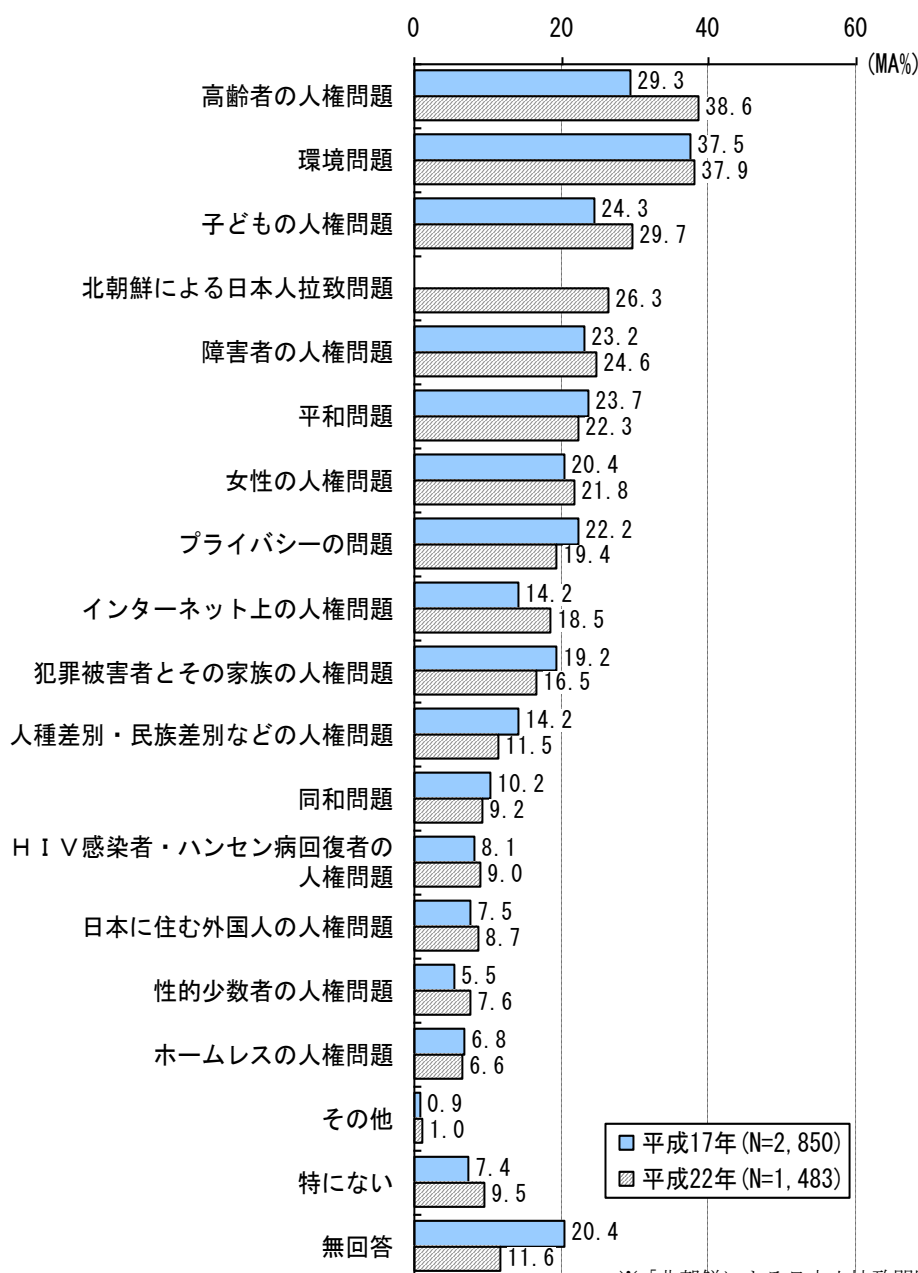
【図 9-6 参加したきっかけ（前回調査との比較）】



参加したきっかけについて、前回・今回とも「他の行事や研修会の中に講演会が組み込まれていた」が最も高く、次いで「勤務先の命令で」、「関心を持っているので自分から進んで」と続いている。今回調査では、前回調査と比べ「他の行事や研修会の中に講演会が組み込まれていた」が1.8ポイント、「勤務先の命令で」が3.1ポイント高くなり、「自分が団体などの役員をしている」が1.6ポイント低くなっている。（図 9-6）

## (5) 理解を深めたい人権問題

【図 9-7 理解を深めたい問題（前回調査との比較）】



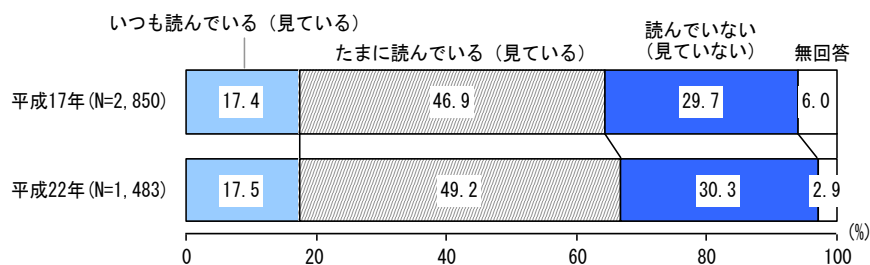
※「北朝鮮による日本人拉致問題」は、平成22年に新しく追加した項目のため、平成17年にはない。

理解を深めたい人権問題について、前回調査と比較すると、前回調査で第2位の「高齢者の人権問題」が、前回調査で第1位の「環境問題」と入れ代わり、今回調査では最も高くなっている。これらに次いで「子どもの人権問題」が続き、今回調査で新しく追加した項目の「北朝鮮による日本人拉致問題」が上位に含まれている。

また、今回調査では、前回調査と比べ「高齢者の人権問題」が9.3ポイント、「子どもの人権問題」が5.4ポイント、「インターネット上の人権問題」が4.3ポイント高くなり、「プライバシーの問題」が2.8ポイント、「犯罪被害者とその家族の人権問題」が2.7ポイント、「人種差別・民族差別などの人権問題」が2.7ポイント低くなっている。（図9-7）

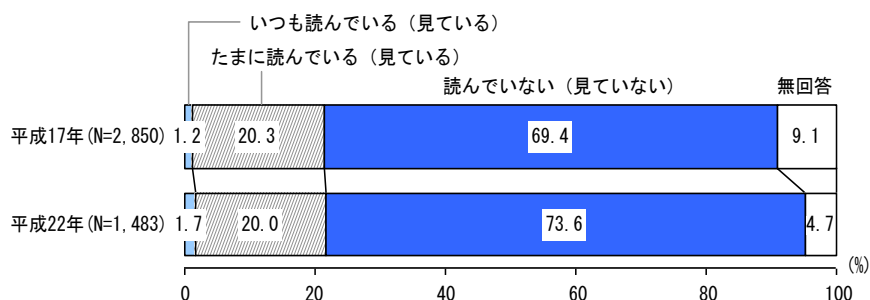
## (6) 人権啓発記事や広報などについて見聞きした経験

【図 9-8 ア. 「広報さかい」掲載の人権啓発・人権情報に関する記事（前回調査との比較）】



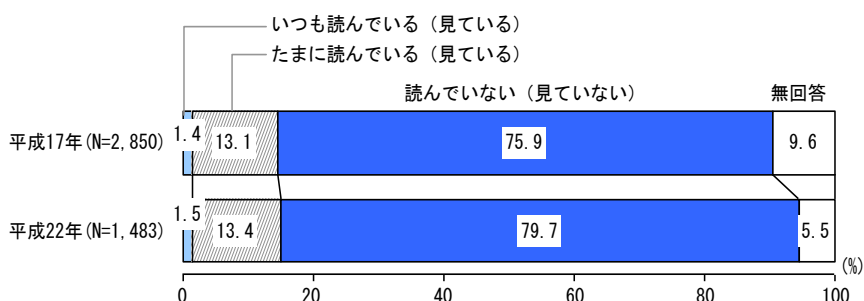
「ア. 「広報さかい」掲載の人権啓発・人権情報に関する記事」について、前回・今回とも“読んでいる”が6割台を占めており、ともに“読んでいない”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“読んでいる”が2.4ポイント高くなっている。(図9-8)

【図 9-9 イ. 堺市提供の人権テレビ番組（前回調査との比較）】



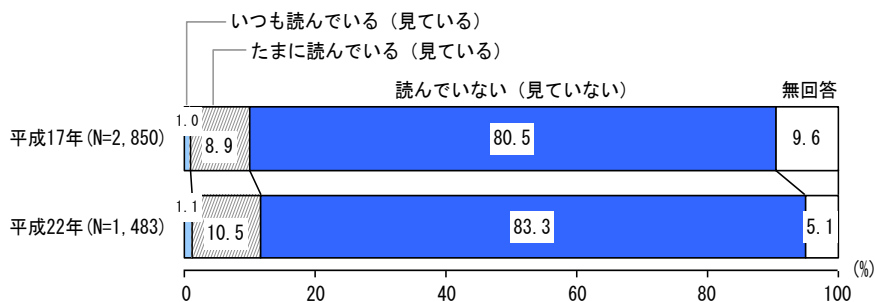
「イ. 堺市提供の人権テレビ番組」について、前回・今回とも「見ていない」が7割前後を占めており、ともに“見ている”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「見ていない」が4.2ポイント高くなっている。(図9-9)

【図 9-10 ウ. 人権啓発冊子や人権関係のパンフレット、リーフレット（前回調査との比較）】



「ウ. 人権啓発冊子や人権関係のパンフレット、リーフレット」について、前回・今回とも“読んでいない”が7割以上を占めており、ともに“読んでいる”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ“読んでいない”が3.8ポイント高くなっている。(図9-10)

【図 9-11 エ. 堺市ホームページの人権コーナー（前回調査との比較）】

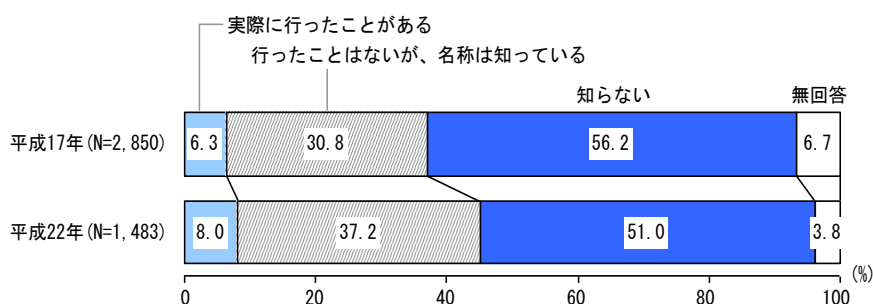


「エ. 堺市ホームページの人権コーナー」について、前回・今回とも「見ていない」が8割台を占めており、ともに“見ている”に比べ割合が高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「見ていない」が2.8ポイント、“見ている”が1.7ポイント高くなっている。

（図 9-11）

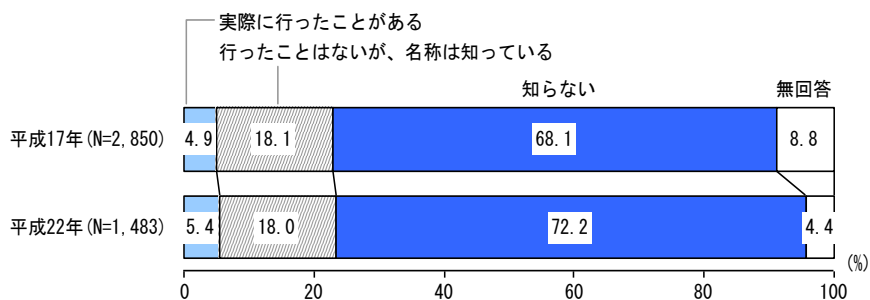
### （7）人権に関わる施設の認知（利用）状況

【図 9-12 ア. 堺市立人権ふれあいセンター（前回調査との比較）】



「ア. 堺市立人権ふれあいセンター」について、前回・今回とも「知らない」が過半数を占めて最も高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「知らない」が5.2ポイント低くなり、「実際に行ったことがある」が1.7ポイント、「行ったことはないが、名称は知っている」が6.4ポイント高くなっている。（図 9-12）

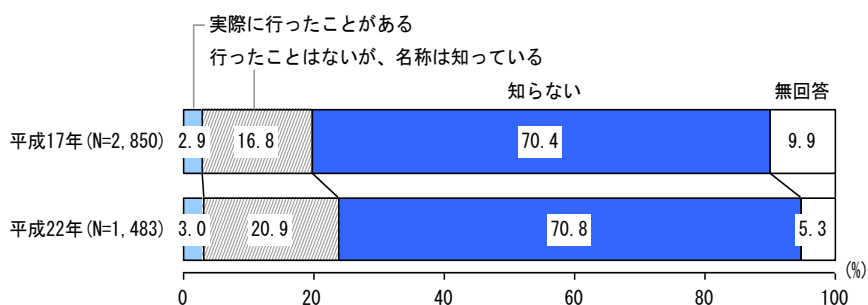
【図 9-13 イ. 堺市舳松人権歴史館（前回調査との比較）】



「イ. 堺市舳松人権歴史館」について、前回・今回とも「知らない」が7割前後を占めて最も高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「知らない」が4.1ポイント、「実際に行ったことがある」が0.5ポイント高くなっている。（図 9-13）

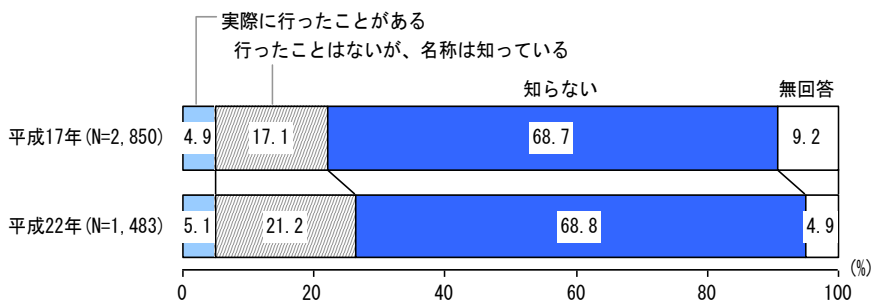


【図 9-14 ウ. 堺市立平和と人権資料館（前回調査との比較）】



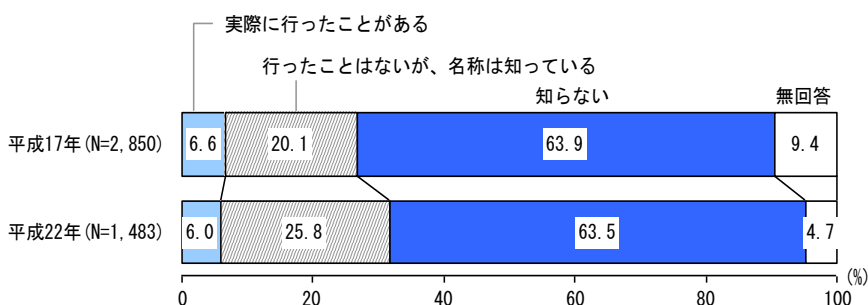
「ウ. 堺市立平和と人権資料館」について、前回・今回とも「知らない」が7割台を占めて最も高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「知らない」が0.4ポイント、「行ったことはないが、名称は知っている」が4.1ポイント高くなっている。（図 9-14）

【図 9-15 エ. 大阪人権博物館（前回調査との比較）】



「エ. 大阪人権博物館」について、前回・今回とも「知らない」が7割近くを占めて最も高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「知らない」はほとんど差が見られないが、「行ったことはないが、名称は知っている」が4.1ポイント高くなっている。（図 9-15）

【図 9-16 オ. 大阪国際平和センター（前回調査との比較）】



「オ. 大阪国際平和センター」について、前回・今回とも「知らない」が6割台を占めて最も高くなっている。今回調査では、前回調査と比べ「知らない」が0.4ポイント、「実際に行ったことがある」が0.6ポイント低くなり、「行ったことはないが、名称は知っている」が5.7ポイント高くなっている。（図 9-16）